

近江町埋蔵文化財調査集報 1

国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」報告書

1 9 9 5

滋 賀 県 坂 田 郡

近 江 町 教 育 委 員 会

序

近江町は、古代より近畿・東海・北陸を結ぶ交通の要衝とされ、滋賀県内においても、周知される埋蔵文化財包蔵地の多い町として知られており、平成元年以降の6年間では、大小合わせて63度に及ぶ調査を実施してまいりました。これらのうち、個人住宅建設など営利を目的としない開発行為が原因となるものを対象として、経費の個人負担を軽減する目的で、国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」を実施しております。いずれも小規模な調査ではありますが、その調査で記録された資料は、近江町の歴史や文化を理解する上で、欠くことのできない公共の財産であります。

この報告が地域史研究や埋蔵文化財保護への理解と認識を深めるために幾分でも寄与することができれば、幸いです。

末筆になりましたが、同事業に御協力いただきました関係諸氏・関係諸機関に厚く御礼申し上げます。

平成7年3月

近江町教育委員会

教育長 北川 孫一

例 言

- 1, 本書は国庫補助事業埋蔵文化財（近江町内遺跡）発掘調査の報告書であり、平成2年度より平成6年度までの5年間に実施した事業の報告にあたる。
- 2, この事業では、個人住宅建設等に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施する他、遺跡保護資料を作成する測量調査を補足的に実施している。
- 3, この報告書では、近江町に所在する埋蔵文化財包蔵地の周知と、町内遺跡調査の全容を示すことを目的としており、平成元年度以降に実施した全ての調査概要と、既刊の調査報告書の所在についても併せて紹介した。また、平成6年度末までの調査によって、各遺跡の周知範囲についても幾分変更する必要性が生じており、最新の分布地図を本書の中で紹介した。

	国庫補助金	県費補助金	町費負担金	計
平成2年度	500,000円	250,000円	250,000円	1,000,000円
平成3年度	440,000円	220,000円	220,000円	880,000円
平成4年度	500,000円	250,000円	250,000円	1,000,000円
平成5年度	500,000円	250,000円	250,000円	1,000,000円
平成6年度	750,000円	375,000円	375,000円	1,500,000円
計	2,690,000円	1,345,000円	1,345,000円	5,380,000円

- 4, この調査の事業経費および各補助金の内容は、以下のとおりである。
- 5, 調査の体制は下記のとおりである。

調査主体	近江町教育委員会	教育長	木田源三郎	（平成元年度～平成2年度）
			北川 孫一	（平成3年度～平成6年度）
調査事務局	近江町教育委員会 社会教育課	課長	須戸 茂樹	（平成元年度～平成2年度）
			森 昭一	（平成3年度～平成6年度）
		係長	世森 増信	（平成元年度～平成3年度）
			岩脇 広治	（平成4年度～平成6年度）
		主任	宮崎 幹也	
		主事	北村 正行	
調査補助員	南孝雄（現・京都市埋蔵文化財研究所）、中川治美（現・滋賀県文化財保護協会）、橋本和恵（現・草津中学校）、高橋元子、小川由貴枝			
発掘作業員	広瀬清左エ門、村岡勝次、北居憲治、近藤喜美子、吉居靖子、小原八重			

子

- 6, 出土遺物の整理、復原、実測に関しては、上記の調査補助員が担当した。
- 7, 本書をまとめるにあたって、下記の方々から指導、助言を得た。記して厚く感謝の意を表する次第である。
岩橋隆浩、宇野茂樹、江谷寛、小笠原好彦、大崎哲人、大橋信弥、小野山節、
粕淵宏昭、桂田峰男、兼康保明、北原治、葛野泰樹、近藤滋、高居芳美、高橋克壽、
高橋順之、高橋美久二、田中勝弘、土井一行、田路正幸、中井均、中川通士、
中村健二、林博通、古野四郎、森下章司、山中一郎、吉田秀則（五十音順、敬称略）
- 8, 基準点測量製図業務については、金城測量設計株式会社に委託して実施した。
- 9, 遺物写真の撮影については、寿福写房・寿福滋氏に委託して実施した。
- 10, 本書で使用した方位は新平面直角座標系VIを基準としているが、座標移動のできないものについては、磁北（MN）を使用している。また標高はTP（東京湾平均海面高度）を用いた。
- 11, 本書の執筆・編集は、宮崎幹也が担当した。

目 次

第1章 近江町の遺跡	1
第2章 平成元年度～6年度の発掘調査	3
第3章 近江町内遺跡関連文献一覧	23
第4章 近江町内遺跡発掘調査報告	29
第5章 近江町内遺跡一覧	38
第6章 まとめ	41

挿 図 目 次

第1図 国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」調査地点.....	29
第2図 長門寺遺跡第1次発掘調査平面図.....	30
第3図 S X9001出土遺物.....	31
第4図 法勝寺遺跡第6次調査平面図.....	34
第5図 古墳測量図.....	35
第6図 碓遺跡試掘調査出土遺物.....	37
第7図 近江町内遺跡分布図.....	43

図 版 目 次

図版 1 (上) 長門寺遺跡第1次発掘調査風景	
(下) 長門寺遺跡S X9001検出状況	
図版 2 (上) 日撫山古墳現況	
(下) 長沢遺跡試掘調査風景	
図版 3 (上) 法勝寺遺跡第6次発掘調査検出遺構 (上層)	
(下) 法勝寺遺跡第6次発掘調査検出遺構 (下層)	
図版 4 (上) 顔戸山砦1号墳現況	
(下) 大王寺遺跡試掘調査検出遺構	

第1章 近江町の遺跡

概 要

滋賀県坂田郡近江町は、琵琶湖の北東岸に位置し、南北7.2km・東西5.0km・総面積18.04km²の町域を有する小さな町である。町域の北部は長浜市、南部は米原町、東部は山東町とそれぞれ接している他、西部は琵琶湖に面している。現在、近江町内には計108箇所の遺跡(埋蔵文化財包蔵地)が周知されており、これらの遺跡について、概要を次に紹介する。

旧石器時代・縄文時代

近江町内の遺跡から出土した最も古い遺物は、狐塚遺跡の「有舌先頭器」である。この遺物が旧石器時代に含まれるものか、縄文時代に含まれるものか明らかでないが、隣接する法勝寺遺跡(高溝)では縄文時代早期の「高山寺式押型文土器」が広範囲に分布して出土している。法勝寺遺跡の南側に隣接する高溝遺跡(高溝遺跡)では、前期より晩期に至る遺物が出土している他、浄蓮寺遺跡(顔戸)では後期の土器棺墓が検出されている。このように、従来の調査によって、早期より晩期に至る充実した遺物が出土している一方、具体的な遺構の検出例が少なく、今後の調査によって集落遺跡の解明が望まれている。

弥生時代

前期の遺物は、埋塚遺跡(顔戸)と、法勝寺遺跡(高溝)より出土している。両遺跡では、畿内系の土器と東海系の土器が共伴した形で出土しており、文化の交差する地域性をみる事ができる。中期になると、宇賀野墓町遺跡(宇賀野)・長沢遺跡(長沢)・法勝寺遺跡(高溝)に遺跡の分布は広がる。長沢遺跡では、木製品の製作加工に関連した資料が豊富に出土しており、この南側500mに位置する法勝寺遺跡では同時期の方形周溝墓が検出されている。後期になると遺跡の数は爆発的に増加し、奥松戸遺跡(長沢)・法勝寺遺跡(高溝)・長門寺遺跡(顔戸)・埋塚遺跡(顔戸)・西円寺遺跡(西円寺)など標高89m前後に墓域を中心とした遺構が展開される。このように墓域に関連する遺構が充実しているのに対し、居住区域の遺構検出例が少ないのが特徴である。

古墳時代

近江町の遺跡で、遺構と出土遺物が最も充実するのが古墳時代前期である。遺構の中心となるものは大溝遺構であり、稗田遺跡(顔戸)で検出した遺構が最上流にあたり、2つに分岐し、北側に続く遺構は顔戸遺跡(顔戸)・高溝遺跡(高溝)・法勝寺遺跡(同)・狐塚遺跡(同)で

検出された遺構へと続く。顔戸遺跡では大溝に隣接して掘立柱建物が検出され、高溝遺跡では小型仿製鏡2面を含めた祭祀関連の遺物が溝内出土している。また西側に続く遺構は埋塚遺跡(顔戸)・黒田遺跡(顔戸)・碓遺跡(宇賀野)へと続き、黒田遺跡では大溝に隣接して水辺祭祀遺構と掘立柱建物が検出された。

中期の遺構については、大変稀薄になるが、横山丘陵の南端尾根上に定納古墳群(新庄)・甲塚古墳(顔戸)・顔戸山砦1号墳(同)・日撫山古墳(同)・アマタビ遺跡(同)などの古墳が築造される。

後期になると、「息長古墳群」と呼ばれる古墳群が成立し、6世紀初頭より後期にかけて、塚の越古墳(新庄)・狐塚5号墳(高溝)・山津照神社古墳(能登瀬)・狐塚1号墳～4号墳(高溝)・人塚山古墳(顔戸)が築造される。塚の越古墳・山津照神社古墳は前方後円墳、狐塚5号墳は帆立貝形古墳、いずれも豊富な形象埴輪の出土で知られる。

古墳時代に関連する遺構は、前期の集落跡と中後期の墓域が明確であるのに対し、他の時期の集落遺構等については実態が不明である。

歴史時代

白鳳期の寺院跡としては、正恩寺遺跡(飯)・法勝寺遺跡(高溝)の2遺跡が周知される。前者は、地藏堂遺跡(飯)・普明庵遺跡(同)と隣接し、複合寺院跡と理解されるが実態は不明。法勝寺遺跡は、平安時代中期に再建されたことが出土軒瓦から推測される。

奈良時代の寺院跡としては、『興福寺官務牒疏』に記載のある奈良興福寺の子院「歓喜光寺(宇賀野)」「護寧寺(岩脇遺跡)」「興福寺(世継遺跡)」の存在が知られるが、寺院関連遺構は明瞭にされていない。

水田地割に関連する遺構として、町内には三種類以上の表層地割が存在する。第1の地割は「長浜の条里制遺構」。黒田遺跡と高溝遺跡から良質な畦畔遺構が検出される他、西火打遺跡では、条里制水田管理に伴う建物群が確認されている。この地割は、一般的な水田地割と考えられる。第2の地割は、新庄集落の北側に広がる「斜行地割」。地割の西端部に所在する埋塚遺跡では、主軸方位を揃えた奈良時代の大型建物群が確認されている。この地割は「東大寺領坂田郡息長庄」に関連する遺構とも推測される。また第3の地割は、法勝寺遺跡・狐塚遺跡・碓遺跡を中心に広がる「南北地割」。水田の畦畔遺構をはじめ、平安時代後期の大型建物群が確認されている。この地割は「臨川寺領法性寺郷」に関連する遺構と推測される。

また中世の遺跡としては、平地の城郭として新庄箕浦城遺跡(新庄)、寺院関連遺跡として浄蓮寺遺跡(顔戸)、朝妻街道に面した集落として寺倉遺跡(寺倉)等の調査が実施されている。

以上のように、歴史時代の遺構については、農地開発に伴う遺構が多く、条里制遺構や寺院系荘園に関連する水田畦畔跡の検出例が多い。

第2章 平成元年度～6年度の発掘調査

平成元年度から平成6年度までの6年間、近江町内で実施された埋蔵文化財の調査は以下のとおりであり、その性格は、立会調査・試掘調査・発掘調査に大別される。調査の大部分は、近江町教育委員会が調査機関となっており、社会教育課主任宮崎幹也が担当した。また滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会が調査機関となったものについては、文中に記した。なお調査経費については、原因者負担が原則であるが、個人住宅等の建設に伴う調査については、原因者の負担を軽減するために補助事業としており、当該調査については文中に「国庫補助事業」と明記した。

平成元年度

埋塚ほか遺跡試掘調査

調査期間	平成元年5月9日～5月17日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸地先
調査面積	約500㎡
調査原因	県営ほ場整備事業および県営かんがい排水事業（滋賀県農林部）
概要	埋塚遺跡・長門寺遺跡・正光寺遺跡・顔戸遺跡・浄蓮寺遺跡・新庄箕浦城遺跡の試掘調査を実施。埋塚遺跡・浄蓮寺遺跡・箕浦城遺跡の一部が、当該工事によって影響を受けると判明し、別途に発掘調査(埋塚遺跡第1次調査ほか)を実施することとなった。

埋塚遺跡第1次調査

調査期間	平成元年6月12日～7月3日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸字埋塚地先
調査面積	約330㎡
調査原因	県営かんがい排水事業（滋賀県農林部）
概要	埋塚遺跡は、「古墳伝承地」として周知されていたが、過去に発掘調査等の経緯がなく、実態は不明であった。第1次発掘調査区は、この遺跡北端の落ち込みに相当し、弥生時代から平安時代にかけての遺物包含層が確認され、複合遺跡としての性格が明らかとなった。
文献	『近江町文化財調査報告書第8集埋塚遺跡』（近江町教育委員会 1990年）

埋塚遺跡第2次調査

調査期間	平成元年6月28日～8月18日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸字埋塚地先
調査面積	約1,400㎡
調査原因	県営ほ場整備事業（滋賀県農林部）
概要	第1次発掘調査の成果によって、同遺跡は弥生時代から平安時代にかけての複合遺跡としての性格が明らかになった。第2次発掘調査では、弥生時代後期の方形周溝墓、古墳時代の大溝、奈良時代の大形掘立柱建物群、平安時代の条里規制建物群などを検出した。遺跡北端の沼沢地縁部には方形周溝墓が立地し、古墳として伝承されていた箇所では古墳時代の大溝が埋設され、その上面に奈良時代の掘立柱建物群が築造されていたことが判明した。
文献	『近江町文化財調査報告書第9集埋塚遺跡2』（近江町教育委員会 1990年）

寺倉遺跡試掘調査

調査期間	平成元年6月17日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字寺倉字御所立441-1他
調査面積	約60㎡（対象面積約4,226㎡）
調査原因	造園資材置場建設（民間開発・株式会社東産業）
概要	寺倉遺跡は、弥生時代より中世に至る複合遺跡として周知されている。当試掘調査は、遺跡周知範囲の南端部にあたる国道21号線の北隣接地で実施し、これまで知られていない埋没古墳に関連する遺構を検出した。発見された遺構は、埋没古墳の周濠の残骸と考えられ、遺存状況の極めて悪いものであった。遺構の内部からは円筒埴輪片が出土し、寺倉遺跡の南側丘陵の裾部には、埴輪を巡らせた後期古墳が存在したものと推測される。

浄蓮寺遺跡第1次発掘調査

調査期間	平成元年6月19日～7月3日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸地先
調査面積	約390㎡
調査原因	県営ほ場整備事業および県営かんがい排水事業（滋賀県農林部）
概要	浄蓮寺遺跡は、「中世の寺院伝承地」として周知されてきたが、これは小字名の存在と、中世土器の散布が認められることによる。ここでは、過去に発掘調査等の経緯がなく、具体的な遺構は確認されていなかったが、第1次発掘調査によって中世後期の遺構と遺物包含層が確認された。調査を実施した

同遺跡の北端部では、旧河川「顔戸川」の埋設箇所があり、この埋土中にも同遺跡の遺物が多量に包含されていることが判明した。

文 献 『近江町文化財調査報告書第8集埋塚遺跡』（近江町教育委員会 1990年）

浄蓮寺遺跡第2次発掘調査

調査期間 平成元年6月～10月

所在地 滋賀県坂田郡近江町大字顔戸地先

調査面積 約500m²

調査原因 県営ほ場整備事業（滋賀県農林部）

概 要 第2次発掘調査は、滋賀県教育委員会と（財）滋賀県文化財保護協会が主体となって遺跡周知範囲の南端部において実施された。これまで浄蓮寺遺跡の性格は、中世寺院に関連するものと考えられていたが、第2次発掘調査では、縄文時代の土器棺墓群、飛鳥時代の建物群なども確認され、複合遺跡としての性格が明らかになった。

文 献 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XVIII-9』（滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会 1991年）

新庄箕浦城遺跡第1次発掘調査

調査期間 平成元年6月～10月

所在地 滋賀県坂田郡近江町大字新庄地先

調査面積 約1,700m²

調査原因 県営ほ場整備事業（滋賀県農林部）

概 要 箕浦城遺跡は、中世の平城として周知される遺跡である。第1次発掘調査は、滋賀県教育委員会と（財）滋賀県文化財保護協会が主体となって実施され、城郭の中心部分を囲む堀跡・建物跡・火葬墓等が確認された。

文 献 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XVIII-9』（滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会 1991年）

宮の前遺跡試掘調査

調査期間 平成元年7月10日

所在地 滋賀県坂田郡近江町大字能登瀬地先

調査面積 約50m²

調査原因 県営ほ場整備事業（滋賀県農林部）

概 要 宮の前遺跡は、3つの寺院推定地が混在する遺跡であるが、これまでに発掘調

査等の経緯がなく、実態については不明な点の多い遺跡である。遺跡周知範囲の西部の畑地で実施した試掘調査では、平安時代後期の遺構と遺物包含層が確認され、別途に発掘調査を実施することとなった。

黒田遺跡試掘調査

調査期間 平成元年7月26日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字箕浦字小角355-1
調査面積 約20㎡（対象面積402㎡）
調査原因 建設資材置場建設（民間開発・中原工務店）
概要 黒田遺跡は、奈良・平安時代の遺物散布地として周知されていたが、これまでに具体的な遺構の検出等は無。当試掘調査今回の黒田遺跡に関する初めての調査となったが、具体的な遺構や遺物は確認されなかった。

碓遺跡試掘調査

調査期間 平成元年10月3日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字長沢字泉沢503他
調査面積 約80㎡（対象面積3,800㎡）
調査原因 駐車場造成工事（民間開発・株式会社利高工業）
概要 碓遺跡は、古墳時代より奈良時代に至る複合集落遺跡である。試掘調査は遺跡周知範囲の北東端を対象としたが、具体的な遺構や遺物は確認されなかった。

高溝遺跡試掘調査

調査期間 平成元年10月9日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字高溝字長切205-1他
調査面積 約70㎡（対象面積8,600㎡）
調査原因 倉庫建設（民間開発・株式会社利高工業）
概要 高溝遺跡周知範囲の西端部において試掘調査を実施したが、遺構・遺物包含層などに遺跡に関連するものは確認されなかった。

長門寺遺跡試掘調査

調査期間 平成元年10月26日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字顔戸字西畑982他
調査面積 約24㎡（対象面積1,324㎡）
調査原因 個人住宅建設等

概 要 長門寺遺跡は「中世の寺院伝承地」として周知されてきた。小字「長門寺」の西側に隣接する小字「西畑」地先を試掘調査したところ、弥生時代の遺物包含層と遺構の存在が確認され、別途に発掘調査を実施することとなった。

稗田遺跡第1次発掘調査

調査期間 平成元年10月30日～11月1日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字顔戸地先
調査面積 約300㎡
調査原因 県営ほ場整備事業（滋賀県農林部）

概 要 稗田遺跡は、須恵器等の遺物が散布が確認されていたものの、遺跡の実態については不明な点の多い遺跡であった。第1次発掘調査では、古墳時代前期の遺物包含層が確認された。また同時に実施した周辺の分布調査では、具体的な遺構の拡がりも確認されず、遺跡の実態には不明な点が多い。

塚の越古墳第1次発掘調査

調査期間 平成元年11月2日～平成2年1月9日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字新庄字塚越地先
調査面積 約1,000㎡
調査原因 県営ほ場整備（滋賀県農林部）

概 要 塚の越古墳は、平野に立地する後期前方後円墳である。この古墳は、すでに覆土の大半を逸しており、本来の墳形を留めず、水田内に東西30m・南北20m規模の雑木林となって残されている。第1次調査では、古墳の周辺に調査区を設定し、水田下に拡がる本来の古墳裾部、葦石、周濠などが確認され、従来周知されていたより規模の拡がることが判明した。また、この古墳の裾部には「石見型盾埴輪」が巡り、墳丘上には家型埴輪・人物埴輪・盾型埴輪・鶏型埴輪などが飾られていたものと考えられ、これらの遺物が周濠内より出土した。

文 献 『近江町文化財調査報告書第10集塚の越古墳』（近江町教育委員会 1990年）

高溝遺跡第2次発掘調査

調査期間 平成2年1月10日～2月7日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字高溝地先
調査面積 約840㎡
調査原因 県営ほ場整備および県営かんがい排水事業（滋賀県農林部）

概 要 高溝遺跡は、縄文時代前期から晩期を中心とした集落遺跡である。県営ほ場

整備に関連した実施した第1次発掘調査では、同時代の遺物包含層の他、古墳時代の大溝遺構・平安時代の掘立柱建物跡などが検出されてきた。第2次発掘調査では、パイプライン埋設と灌漑排水管理設に関連した南北に長い調査区設定をおこない、北半部で掘立柱建物跡、中央部で条里畦畔、南部で大溝跡を検出した。この2回の発掘調査によって、高溝遺跡は、縄文時代全般を中心とした集落遺跡であるが、古墳時代前期に大溝が開掘され、さらに条里制の普及期に地形上の起伏が直されたものと推測される。

文 献 『近江町文化財調査報告書第8集埋塚遺跡』（近江町教育委員会 1990年）

高溝・顔戸遺跡試掘調査

調査期間 平成2年2月2日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字高溝・顔戸地先
調査面積 約240㎡（対象面積約29,386㎡）
調査原因 住宅地造成（民間開発・株式会社山口不動産）
概 要 高溝遺跡最西端箇所と顔戸遺跡最西端箇所において、両遺跡の試掘調査を実施したが、遺構・遺物包含層等は確認されなかった。

顔戸遺跡第2次発掘調査

調査期間 平成2年2月7日～3月2日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字顔戸地先
調査面積 約890㎡
調査原因 県営ほ場整備および県営かんがい排水事業（滋賀県農林部）
概 要 顔戸遺跡は、古墳時代前期を中心とした集落遺跡である。県営ほ場整備に関連した実施した第1次発掘調査では、古墳時代の建物遺構と大溝遺構が検出された。第2次発掘調査では、パイプライン埋設と灌漑排水管理設に関連した南北に長い調査区設定をおこない、北半部で掘立柱建物跡、南半部で古墳時代の集落遺構を検出した。

文 献 『近江町文化財調査報告書第8集埋塚遺跡』（近江町教育委員会 1990年）

塚の越古墳第2次発掘調査

調査期間 平成2年3月3日～3月5日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字新庄字塚越地先
調査面積 約100㎡
調査原因 県営かんがい排水事業（滋賀県農林部）

概要 第2次発掘調査は、北陸自動車道の側道下において実施され、古墳後円部の
拡がり確認された。従来、この古墳は「北陸自動車道」に影響を受けない位
置に立地するものと考えられてきたが、2回に及ぶ発掘調査によって、同自動
車道の本線下に周濠の一部が拡がると判明した。

文献 『近江町文化財調査報告書第8集埋塚遺跡』（近江町教育委員会 1990年）

寺倉遺跡発掘調査

調査期間 平成元年11月～12月

所在地 滋賀県坂田郡近江町大字寺倉地先

調査面積 約1,000㎡

調査原因 県営ほ場整備（滋賀県農林部）

概要 同調査は、滋賀県教育委員会と(財)滋賀県文化財保護協会が主体となって実
施され、中世前半期を中心とした中世集落遺跡の遺構が確認された。また、同
時に寺倉遺跡全域を対象として、集落の周囲に極めの細かい試掘調査が実施さ
れ、同遺跡の範囲が明確になった。

文献 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XVIII-4』（滋賀県教育委員会・(財)滋賀県
文化財保護協会 1991年）

碓遺跡試掘調査

調査期間 平成2年1月25日～5月8日

所在地 滋賀県坂田郡近江町大字長沢間村町488-1他

調査面積 約200㎡（対象面積1,800㎡）

調査原因 駐車場造成工事（民間開発・株式会社利高工業）

概要 碓遺跡は、古墳時代より奈良時代に至る複合集落遺跡である。試掘調査は遺
跡周知範囲の北部を対象とし、その一部において、遺構および遺物包含層の所
在を確認した。この結果を踏まえ、次年度に発掘調査が別途に実施されること
となった。

高溝・顔戸・法勝寺遺跡整理調査

調査期間 平成元年4月1日～平成2年3月31日

所在地 滋賀県坂田郡近江町大字高溝・顔戸地先

調査原因 県営ほ場整備事業（滋賀県農林部）

概要 昭和61年度より同63年度までの期間、縄文時代の集落遺跡「高溝遺跡」、古
墳時代前期の集落遺跡「顔戸遺跡」、弥生時代の墳墓群「法勝寺遺跡」を対象

として発掘調査を実施した。これらの調査について、平成元年度に整理調査を実施し、3冊の調査報告書を刊行した。

- 文 献 『近江町文化財調査報告書第4集高溝遺跡』（近江町教育委員会 1990年）
『近江町文化財調査報告書第5集顔戸遺跡』（近江町教育委員会 1990年）
『近江町文化財調査報告書第6集法勝寺遺跡』（近江町教育委員会 1990年）

平成2年度

岩脇遺跡立会調査

- 調査期間 平成2年4月9日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字岩脇字三反田555他
調査面積 (対象面積3,785㎡)
調査原因 工場建設（民間開発・扶桑工業株式会社）
概 要 岩脇遺跡は、飛鳥時代より奈良時代に至る遺物散布地として周知されてきた。遺跡周知範囲の西端において立会調査を実施したが、遺構および遺物包含層等の遺跡に関連するものは発見されなかった。

宮の前遺跡第1次発掘調査

- 調査期間 平成2年4月19日～5月8日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字能登瀬地先
調査面積 約450㎡
調査原因 県営ほ場整備事業（滋賀県農林部）
概 要 宮の前遺跡は、「寺院跡」として周知される遺跡である。第1次発掘調査は、遺跡周知範囲の西端で実施し、平安時代後期の掘立柱建物跡と土壙を検出した。

岩脇遺跡試掘調査

- 調査期間 平成2年5月7日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字岩脇字西の辻571-1他
調査面積 約30㎡（対象面積4,554㎡）
調査原因 建設資材置場（民間開発・山形豊氏）
概 要 岩脇遺跡は、飛鳥時代より奈良時代に至る遺物散布地として周知されてきた。試掘調査は、遺跡周知範囲の北西端部で実施された。調査地では、天野川の旧河道氾濫の痕跡が認められ、具体的な遺構や遺物包含層は確認されなかった。

碓遺跡第2次発掘調査

調査期間	平成2年5月14日～6月21日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字長沢地先
調査面積	約1,000㎡
調査原因	工場建設（民間開発・利高工業株式会社）
概要	碓遺跡は、古墳時代より奈良時代に至る複合集落遺跡である。県営ほ場整備事業に関連して実施した第1次発掘調査では、古墳時代前期の溝、奈良時代の掘立柱建物などが確認されたが、第2次発掘調査では、同遺跡の北端部から、奈良時代の掘立柱建物跡、土壌、区画水田の大規模畦畔等が確認された。今回までの調査によって、碓遺跡では、古墳時代前期の遺構は周知範囲の南半部、奈良時代の遺構は北半部に集中することが明らかとなった。
文献	『近江町文化財調査報告書第11集碓遺跡2』（近江町教育委員会 1991年） 『近江町文化財調査報告書第2集碓遺跡発掘調査報告書』（近江町教育委員会 1987年）

宮の前遺跡第2次発掘調査

調査期間	平成2年6月4日～6月14日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字能登瀬地先
調査面積	約489㎡
調査原因	長老墓地川改修事業（滋賀県土木部）
概要	第2次発掘調査は、第1次発掘調査と隣接する位置関係にあり、遺跡周知範囲の西端に位置する。先の第1次発掘調査では、それまで年代の不明であった同遺跡が、平安時代後期に存在したことを突き止めた。また、この第2次発掘調査においても、掘立柱建物跡や土壌など平安時代後期の遺構と遺物包含層を検出した。
文献	『近江町文化財調査報告書第7集宮の前遺跡』（近江町教育委員会 1990年）

西円寺遺跡第1次発掘調査

調査期間	平成2年6月18日～11月24日
所在地	滋賀県坂田郡近江町西円寺地先
調査面積	約6,500㎡
調査原因	県営ほ場整備事業（滋賀県農林部）
概要	西円寺遺跡は、弥生時代より中世に至る複合集落遺跡として周知されてきた。第1次発掘調査は、遺跡周知範囲の北半部に試掘調査を実施した後、当該工事

によって影響の生じる箇所を対象として実施した。調査では、弥生時代後期より古墳時代中期にいたる多数の遺構が確認された。ここでは、東寄りに居住区、西寄りに墓域区の存在が明らかになり、竪穴住居・方形周溝墓・円形墳墓等の遺構が確認された。

文 献 『近江町文化財調査報告書第16集西円寺遺跡』（近江町教育委員会 1993年）

狐塚遺跡試掘調査

調査期間 平成2年7月25日～7月31日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字長沢字間村町491他
調査面積 約100㎡（対象面積2,400㎡）
調査原因 個人住宅建設（山口秀雄氏）
概 要 狐塚遺跡は、縄文時代より鎌倉時代に至る複合遺跡として周知されている。同試掘調査では、同遺跡周知範囲の北西端部を調査し、古墳時代前期の遺構と遺物包含層を確認した。検出した遺構は、1辺約1m規模の土壇であり、埋土中よりS字口縁甕1個体が出土した。

長門寺遺跡第1次発掘調査

調査期間 平成2年7月25日～9月10日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字顔戸字西畑地先
調査面積 約400㎡
調査原因 個人住宅建設等
概 要 長門寺遺跡は「中世の寺院伝承地」として周知されてきた。前年度に試掘調査を実施した箇所を対象として第1次発掘調査を実施した。調査では二層の重層する遺構面が確認され、上層より室町時代の井戸跡1基、下層より弥生時代後期の方形周溝墓3基を検出した。「国庫補助事業」

顔戸遺跡試掘調査

調査期間 平成2年9月13日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字顔戸字西道柳1366-1他
調査面積 約20㎡（対象面積1,400㎡）
調査原因 個人住宅建設（川村尚巳氏他）
概 要 顔戸遺跡は、古墳時代前期を中心とした集落遺跡として周知されている。試掘調査は、遺跡周知範囲西端の一端で実施されたが、具体的な遺構や遺物包含層は確認されなかった。

宮の前遺跡第3次発掘調査

調査期間	平成2年7月～10月
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字能登瀬地先
調査面積	約1,200㎡
調査原因	県営ほ場整備事業（滋賀県農林部）
概要	第3次発掘調査は、遺跡周知範囲の北東端に位置し、滋賀県教育委員会と（財）滋賀県文化財保護協会が主体となって実施された。この調査においても、平安時代後期を中心とした遺構が確認された。
文献	『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XIX-1』（滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会 1992年）

顔戸遺跡試掘調査

調査期間	平成2年11月28日～11月29日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸字西道柳1366-1他
調査面積	約100㎡（対象面積2,121㎡）
調査原因	都市計画道路新設工事（近江町）
概要	顔戸遺跡は、古墳時代前期を中心とした集落遺跡として周知されている。試掘調査は、遺跡周知範囲の西端で実施されたが、具体的な遺構や遺物包含層は確認されなかった。

黒田遺跡第1次発掘調査

調査期間	平成3年1月7日～1月31日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字箕浦字小角363他
調査面積	約1,000㎡
調査原因	工場建設（民間開発・近江不動産株式会社）
概要	黒田遺跡は、奈良時代より平安時代に至る遺物散布地として周知されていたが、これまでの調査では具体的な遺構や遺物包含層は確認されていなかった。第1次発掘調査は、遺跡周知範囲の北部を対象に実施し、古墳時代前期の遺構が確認された。遺構は幅5mを囲む溝を中心としており、また、遺構の埋土には、古墳時代前期の土器をはじめ、縄文時代晩期および弥生時代中期の遺物が多量に包含されており、多時期におよぶ複合遺跡としての性格が判明した。
文献	『近江町文化財調査報告書第12集黒田遺跡』（近江町教育委員会 1991年）

奥松戸遺跡第2次発掘調査

調査期間	平成3年2月4日～3月2日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字長沢地先
調査面積	約640㎡
調査原因	県営かんがい排水事業（滋賀県農林部）
概要	奥松戸遺跡は、弥生時代より奈良時代に至る複合集落遺跡として周知されており、遺跡の中央部には一般国道8号（長浜バイパス）が走るが、この建設に関連した第1次発掘調査では、弥生時代の方形周溝墓、古墳時代の集落遺構、平安時代の区画建物遺構などが確認された。第2次発掘調査は、バイパスの東側に約300m規模の線的調査区を設定し、弥生時代の方形周溝墓、古墳時代の集落遺構、平安時代の区画建物遺構などを検出した。
文献	『近江町文化財調査報告書第14集奥松戸遺跡』（近江町教育委員会 1992年）

黒田遺跡第2次発掘調査

調査期間	平成3年3月4日～3月19日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸字柳町1045他
調査面積	約1,000㎡
調査原因	工場建設（民間開発・株式会社辰誠建設）
概要	第1次調査の結果、黒田遺跡は縄文時代晩期より古墳時代前期を中心とした複合遺跡であることが判明した。第2次発掘調査は、第1次発掘調査区の北側隣接地で実施され、古墳時代前期の大溝と掘立柱建物1棟が確認された。また同時に実施した試掘調査の結果、両調査で確認された大溝遺構は、黒田遺跡の北端部を限る性格を持つものと推測され、その北部において具体的な遺構は確認されていない。
文献	『近江町文化財調査報告書第13集黒田遺跡2』（近江町教育委員会 1991年）

埋塚遺跡整理調査

調査期間	平成2年4月23日～平成3年3月30日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸地先ほか
調査原因	県営かんがい排水事業（滋賀県農林部）
概要	平成元年度に実施した埋塚遺跡第1次調査等に関連する整理調査。埋塚遺跡の他、浄蓮寺遺跡第1次調査・高溝遺跡第2次調査・顔戸遺跡第2次調査・塚の越遺跡第2次調査の報告を含む。
文献	『近江町文化財調査報告書第8集埋塚遺跡』（近江町教育委員会 1990年）

埋塚遺跡整理調査 2

調査期間	平成2年4月1日～平成3年3月31日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸地先ほか
調査原因	県営ほ場整備事業（滋賀県農林部）
概要	平成元年度に実施した埋塚遺跡第2次調査に関連する整理調査。
文献	『近江町文化財調査報告書第9集埋塚遺跡2』（近江町教育委員会 1990年）

平成3年度

長沢遺跡試掘調査

調査期間	平成3年7月20日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字長沢地先
調査面積	約50m ² （対象面積401m ² ）
調査原因	個人住宅建設等
概要	長沢遺跡は、弥生時代中期後葉を中心とした集落遺跡である。遺跡のほぼ中央部を一般国道8号（長浜バイパス）が縦断しているが、これに先立った同遺跡の第1次調査では、弥生時代の木製品製作遺構が確認された。また遺跡の西半部においては、ほ場整備に関連して第2次調査が実施されており、遺構が周知範囲の中央部に集中することが明らかとなった。今回の調査では、遺跡周知範囲の南西端部に試掘調査を実施したが、遺跡に関連する遺構・遺物は確認されなかった。「国庫補助事業」

日撫山古墳測量調査

調査期間	平成3年7月20日～8月31日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸地先
調査面積	約1,500m ²
調査原因	遺跡保存用基礎資料作成
概要	日撫山古墳は、横山丘陵の南端尾根に立地する長方形墳と周知されている。今回の調査では、水準点を移設した後、古墳の墳丘測量を実施し、古墳の実態を明らかにした。
文献	『一般国道8号（米原バイパス）に係る黒田遺跡試掘調査概要』（近江町教育委員会 1993年）

西円寺遺跡第2次調査

調査期間	平成3年4月22日～8月20日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字西円寺地先
調査面積	約3,430㎡
調査原因	県営ほ場整備事業（滋賀県農林部）
概要	西円寺遺跡は、弥生時代後期から古墳時代中期を中心とした複合遺跡である。第2次調査では、遺跡周知範囲の南半部に試掘調査を実施した後、当該工事によって影響の生じる箇所を対象に発掘調査を実施した。調査では、遺跡の南東部において竪穴住居跡と円形墳墓などが確認され、遺跡周知範囲が南側に拡がることを明らかにした。
文献	『近江町文化財調査報告書第16集西円寺遺跡』（近江町教育委員会 1993年）

岩脇遺跡試掘調査

調査期間	平成3年11月14日～11月14日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字岩脇地先
調査面積	約520㎡（対象面積46,000㎡）
調査原因	県営ほ場整備事業（滋賀県農林部）
概要	岩脇遺跡は、『興福寺官務牒疏』に掲載される奈良興福寺の子院「護寧寺」に関連する遺跡と考えられている。試掘調査は、遺跡周知範囲の北東半部を中心に実施し、計50箇所の調査区を設定した。調査では、奈良時代より平安時代に至る時期の遺物包含層と、建物遺構、区画水田の畦畔遺構などを確認した。出土遺物の内には、内面に暗文を施す畿内中央部の技法を示すものもふくまれている。この試掘調査によって、別途発掘調査を実施することとなった。
文献	『近江町文化財調査報告書第15集岩脇遺跡』（近江町教育委員会 1993年）

黒田遺跡試掘調査

調査期間	平成3年1月21日～2月3日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸・箕浦地先
調査面積	約500㎡
調査原因	一般国道8号（米原バイパス）建設
概要	過去2回の発掘調査によって、黒田遺跡は、縄文時代晩期より古墳時代前期を中心とした複合遺跡であることが判明している。この試掘調査は、遺跡周知範囲の東端部を対象に実施し、古墳時代前期の大溝遺構、木柱を残す掘立柱建物遺構、条里畦畔遺構などの所在を明らかにし、別途に発掘調査を実施するこ

ととなった。

文 献 『一般国道8号(米原バイパス)に係る黒田遺跡試掘調査概要』(近江町教育委員会 1993年)

法勝寺遺跡第6次調査

調査期間 平成4年3月26日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字高溝地先
調査面積 約199m²
調査原因 個人住宅建設等
概 要 法勝寺遺跡は、白鳳寺院を中心に立地する縄文時代早期より平安時代後期に至る複合遺跡である。今回の調査では、寺院推定地の北側から弥生時代から平安時代に至る遺構と遺物包含層を検出した。「国庫補助事業」

奥松戸遺跡整理調査

調査期間 平成3年10月21日～平成4年3月31日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字長沢地先
調査原因 県営かんがい排水事業
概 要 平成2年度に実施した奥松戸遺跡第2次発掘調査に関連した整理調査。

平成4年度

甲塚古墳測量調査

調査期間 平成4年8月1日～9月15日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字顔戸字甲塚地先
調査面積 約1,500m²
調査原因 遺跡保存用基礎資料作成
概 要 甲塚古墳は、横山丘陵の南端尾根の一面に立地する大形円墳であるが、その実態については不明な点が多い。今回の調査では、水準点を移設した後、京都大学文学部考古学研究室によって、古墳の墳丘測量が実施され、古墳の実態が明らかにされた。
文 献 「息長古墳群—近江町甲塚1・2号墳と顔戸山砦1号墳の測量調査—」(『第64回滋賀県埋蔵文化財センター研究会資料』京都大学文学部考古学研究室 1994年)

アマタビ遺跡発掘調査

調査期間	平成4年12月1日～平成5年1月31日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸地先
調査面積	約1,000m ²
調査原因	遺跡保存用基礎資料作成
概要	アマタビ遺跡は、横山丘陵の南端尾根の最西端部に立地し、祭祀遺跡として周知されていた。今回の調査では、水準点を移設した後に平板測量を実施した結果、低墳丘の古墳である可能性が生じたが、実態は明らかでない。「国庫補助事業」
文献	『近江町文化財調査報告書第16集西円寺遺跡』（近江町教育委員会 1993年）

岩脇遺跡第1次発掘調査

調査期間	平成4年10月12日～10月20日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字岩脇地先
調査面積	約1,000m ²
調査原因	県営ほ場整備事業（滋賀県農林部）
概要	岩脇遺跡は、『興福寺官務牒疏』に掲載される奈良興福寺の子院「護寧寺」に関連する遺跡で、前年度に実施した試掘調査によって奈良時代前期より平安時代前期に至る遺構の存在が明らかになっていた。第1次発掘調査では、同遺跡のほぼ中央部において建物遺構と畦畔遺構を検出し、奈良時代前期より平安時代前期の遺物包含層を検出した。
文献	『近江町文化財調査報告書第15集岩脇寺遺跡』（近江町教育委員会 1993年）

黒田遺跡第3次発掘調査

調査期間	平成4年10月8日～平成5年1月31日
所在地	滋賀県坂田郡近江町顔戸・箕浦地先
調査面積	約4,000m ²
調査原因	一般国道8号（米原バイパス）建設
概要	黒田遺跡は、縄文時代晩期より古墳時代前期と周知されている。前年度に試掘調査を実施した箇所を対象として第3次発掘調査を実施した。調査では、古墳時代前期の大溝遺構、水辺の祭祀土壇、木柱を残す掘立柱建物遺構、条里畦畔遺構などが確認された。
文献	『近江町文化財調査報告書第17集黒田遺跡3』（近江町教育委員会 1994年）

黒田遺跡第4次発掘調査

調査期間	平成5年2月18日～2月19日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字箕浦字小角350-1他
調査面積	約200m ² (対象面積660m ²)
調査原因	特別高圧送電線路支持物建設 (関西電力株式会社)
概要	黒田遺跡は、縄文時代晚期より平安時代に至る複合遺跡である。第4次発掘調査は、遺跡周知範囲の南部において実施し、隣接する第3次発掘調査地の検出遺構に続く条里制の畦畔遺構を検出した。

大王寺遺跡試掘調査

調査期間	平成5年3月12日～3月26日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字宇賀野地先
調査面積	約400m ²
調査原因	個人住宅建設等
概要	大王寺遺跡は、寺院跡として周知される遺跡であるが、これまでに発掘調査等の経緯がなく、実態については不明であった。試掘調査は、遺跡周知範囲の南端部を対象とし、8m×10m規模の調査区5箇所を設定して実施した。調査では、中世の集落遺構と条里制遺構を検出し、周知範囲の北側へも遺跡の拡がることが明らかになった。

西円寺遺跡整理調査

調査期間	平成4年7月1日～平成5年3月31日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字西円寺地先
調査原因	県営ほ場整備事業 (滋賀県農林部)
概要	平成2年度および3年度に実施した西円寺遺跡第1次発掘調査・第2次発掘調査に関連した整理調査。
文献	『近江町文化財調査報告書第16集西円寺遺跡』(近江町教育委員会 1993年)

平成5年度

法勝寺遺跡第7次発掘調査

調査期間	平成5年7月7日～7月9日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字高溝地先
調査面積	約199m ²

調査原因 個人住宅建設等
概 要 法勝寺遺跡は、白鳳寺院を中心に立地する縄文時代早期より平安時代後期に至る複合遺跡である。今回の調査では、寺院推定地の北側から弥生時代から平安時代に至る遺構と遺物包含層を検出した。「国庫補助事業」

顔戸山砦1号墳測量調査

調査期間 平成5年8月1日～9月15日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字顔戸地先
調査面積 約1,500m²
調査原因 遺跡保存用基礎資料作成
概 要 顔戸山砦1号墳は、横山丘陵の南端尾根に立地する中世城郭関連遺跡「顔戸山砦」の中心部で新しく発見された古墳である。今回の調査では、水準点を移設した後、京都大学文学部考古学研究室によって、古墳の墳丘測量が実施され、古墳の実態が明らかにされた。「国庫補助事業」
文 献 「息長古墳群—近江町甲塚1・2号墳と顔戸山砦1号墳の測量調査—」（『第64回滋賀県埋蔵文化財センター研究会資料』京都大学文学部考古学研究室 1994年）

稗田遺跡試掘調査

調査期間 平成5年7月1日～7月2日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字顔戸地先
調査面積 約300m²
調査原因 遺跡保存用基礎資料作成
概 要 稗田遺跡の周知範囲外において、試掘調査を実施し、周知範囲の西隣に新たな遺構の拡がりを確認した。

稗田遺跡第2次発掘調査

調査期間 平成5年7月12日～7月19日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字顔戸地先
調査面積 約1,000m²（対象面積3,051m²）
調査原因 町立中学校グラウンド拡張工事（近江町）
概 要 稗田遺跡は、過去の調査によって古墳時代前期を中心とした遺跡であることが判明した。第2次発掘調査は、新たに遺跡の拡がり確認された西端部を対象として実施し、具体的な集落遺構は確認されなかったが、多量の遺物を包含

する古墳時代前期の大溝遺構が確認された。この大溝は、顔戸遺跡群の環濠に続く「上流の水路」と推測される。

岩谷遺跡第1次発掘調査

調査期間 平成5年9月28日～9月29日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字岩脇字神尾山257-1
調査面積 約441m² (対象面積2,347m²)
調査原因 送電線鉄塔新設 (関西電力株式会社)
概要 岩谷遺跡は、古墳・城郭跡・近世陶磁器窯跡等から構成される複合遺跡である。第1次発掘調査は、神尾山の山頂近くにある城郭推定地を対象とし、石組遺構と土壙を検出した。しかしながら、出土遺物が少なく、遺跡の具体的な年代は不明である。

碓遺跡試掘調査

調査期間 平成5年10月1日～10月15日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字字賀野
調査面積 約200m²
調査原因 遺跡保存用基礎資料作成
概要 碓遺跡は、古墳時代前期と奈良・平安時代の複合集落遺跡である。近年、本来周知されている範囲よりも南方の地点において、遺物の散布が確認されたのており、範囲確認を目的として試掘調査を実施した。その結果、古墳時代前期の遺物を含んだ溝状遺構などが確認され、同遺跡の周知範囲を南側に延長する結果となった。

狐塚遺跡試掘調査

調査期間 平成5年9月29日～9月30日
所在地 滋賀県坂田郡近江町大字高溝
調査面積 約30m²
調査原因 遺跡保存用基礎資料作成
概要 狐塚遺跡は、古墳時代後期の古墳群を中心とした複合遺跡であるが、本来周知されている範囲よりも南西の地点において、範囲確認を目的とした試掘調査を実施したところ、集落遺構を検出した。これによって、狐塚遺跡の周知範囲は、さらに南西に広がるものと判明した。

黒田遺跡立会調査

調査期間	平成5年9月～10月
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字箕浦・飯地先
調査面積	約300㎡
調査原因	滋賀県東北部流域下水道立坑築造
概要	黒田遺跡の中央部において、下水道立坑工事が実施されたため、立会調査を実施した。調査地は、県道のアスファルト舗装下にあったが、遺構の依存状況は極めて良好であり、古墳時代前期の集落遺構を検出した。

黒田遺跡整理調査

調査期間	平成5年8月20日～3月30日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸・箕浦地先
調査原因	一般国道8号（米原バイパス）建設工事
概要	平成4年度に実施した古墳時代前期を中心とした複合遺跡の発掘調査に関連して、報告書刊行を目的とした整理調査を実施した。

平成6年度

山津照神社古墳測量調査

調査期間	平成6年7月20日～8月10日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字能登瀬地先
調査面積	約1,500㎡
調査原因	遺跡保存用基礎資料作成
概要	県史跡として知られる後期前方後円墳「山津照神社古墳」の実態を把握するため、測量調査を実施した。この調査に際しては、京都大学文学部考古学研究室の協力を得た。

山津照神社古墳第1次発掘調査

調査期間	平成6年8月11日～8月31日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字能登瀬地先
調査面積	約100㎡
調査原因	遺跡保存用基礎資料作成
概要	県史跡として知られる後期前方後円墳「山津照神社古墳」の実態を把握するため、史跡指定範囲の外側にあたる古墳裾部7箇所調査区を設定し、実際の

古墳裾部の位置、周濠の有無、祭場の所在などを追跡調査した。この調査は、文部省科学研究助成費の交付を受けて京都大学文学部考古学研究室が実施した。

法勝寺遺跡第 8 次発掘調査

調査期間	平成 7 年 2 月 1 日～ 3 月 31 日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸・箕浦地先
調査面積	約 100m ²
調査原因	遺跡保存用基礎資料作成
概要	白鳳寺院を中心とした複合集落遺跡「法勝寺遺跡」の中心部に調査区を設定し、遺構の依存状況を確認した。

第 3 章 近江町内遺跡関連文献一覧

近江町内の埋蔵文化財発掘調査に関連して、これまでに刊行されているものは、次のとおりである。調査原因の所在によって、発掘調査機関および報告書発行機関が異なり、国および県の公共機関が原因となるものの多くを滋賀県教育委員会と(財)滋賀県文化財保護協会が担当し、民間開発をはじめ、国・県・町の公共機関が原因となるもの全般を近江町教育委員会が担当している。

国道 8 号線長浜市・近江町バイパス遺跡分布調査報告書

発行機関	滋賀県教育委員会
発行年月日	1968年 3 月 (昭和42年度)
概要	一般国道 8 号 (長浜バイパス) 建設に関連した事前の関連遺跡分布調査報告書。この調査によって、近江町内では長沢遺跡 (西火打遺跡を含む)、奥松戸遺跡 (奥松戸廃寺跡)、碓遺跡の存在が明らかになった。

国道 8 号線長浜バイパス関連遺跡調査報告書Ⅲ

発行機関	滋賀県教育委員会
発行年月日	1973年 3 月 (昭和47年度)
概要	一般国道 8 号 (長浜バイパス) 建設に関連した長沢遺跡第 1 次発掘調査の報告書。弥生時代中期の遺構が確認され、埋土内部より多量の木製品と土器が出土した。

北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ

発行機関 滋賀県教育委員会

発行年月日 1976年3月（昭和50年度）

概要 北陸自動車道建設に伴う後期古墳「黄牛塚古墳」の発掘調査報告。

狐塚遺跡他試掘調査報告書

発行機関 滋賀県教育委員会

発行年月日 1976年3月（昭和50年度）

概要 一般国道8号（長浜バイパス）建設に係る関連遺跡試掘調査報告書。この調査の結果を踏まえ、西火打遺跡第1次発掘調査・奥松戸遺跡第1次発掘調査・法勝寺遺跡第2次発掘調査・狐塚遺跡第1次発掘調査が別途実施されることとなった。

近江町文化財調査報告書第1集近江町内遺跡分布調査報告書

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1987年3月（昭和61年度）

概要 昭和60・61年度の2ケ年で実施した国庫補助事業「近江町内遺跡分布調査」の報告書。新たに発見された遺跡を含め94遺跡が収録されている。なお、1995年3月末現在、周知遺跡は計103箇所増加している。

近江町文化財調査報告書第2集碓遺跡発掘調査報告書

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1987年3月（昭和61年度）

概要 碓遺跡第1次発掘調査の報告書。滋賀県農林部の委託による発掘調査。古墳時代前期の溝と、奈良時代の掘立柱建物跡を検出。

一般国道8号（長浜バイパス）関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ

発行機関 滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会

発行年月日 1987年3月（昭和61年度）

概要 西火打遺跡第1次発掘調査の報告書。長浜平野南域に拡がる条里制遺構の開発時期を追及した調査報告。

一般国道 8 号（長浜バイパス）関連遺跡発掘調査報告書 V

発行機関 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会

発行年月日 1988年 3 月（昭和62年度）

概要 狐塚遺跡第 1 次発掘調査と法勝寺遺跡第 2 次発掘調査の報告書。狐塚 1 号墳～4 号墳の調査報告が収録されている。

ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 X V - 1

発行機関 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会

発行年月日 1988年 3 月（昭和62年度）

概要 正恩寺遺跡第 1 次発掘調査の報告書。

ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 X VI - 1

発行機関 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会

発行年月日 1989年 3 月（昭和63年度）

概要 長沢遺跡第 2 次発掘調査、西火打遺跡第 2 次発掘調査、正恩寺遺跡第 2 次発掘調査の報告書。

一般国道 8 号（長浜バイパス）関連遺跡発掘調査報告書 VI

発行機関 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会

発行年月日 1989年 3 月（昭和63年度）

概要 奥松戸遺跡第 1 次発掘調査の報告書。

近江町文化財調査報告書第 3 集福田寺建造物調査報告書

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1990年 3 月（平成元年度）

概要 奈良国立文化財研究所が編集・発行した『近世社寺建築の研究第 2 号』の部分収録。

近江町文化財調査報告書第 4 集高溝遺跡

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1990年 3 月（平成元年度）

概要 高溝遺跡第 1 次発掘調査の報告。滋賀県農林部の委託による発掘調査。縄文時代前期より晩期に至る遺物包含層と平安時代の集落遺構を検出。

近江町文化財調査報告書第5集顔戸遺跡

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1990年3月（平成元年度）

概要 顔戸遺跡第1次発掘調査の報告。滋賀県農林部の委託による発掘調査。古墳時代前期の大溝と掘立柱建物跡を検出。

近江町文化財調査報告書第6集法勝寺遺跡

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1990年3月（平成元年度）

概要 法勝寺遺跡第3次発掘調査の報告。滋賀県農林部の委託による発掘調査。弥生時代中期より後期を中心とする墓域の調査。前方後方形周溝墓1基と方形周溝墓59基を調査。

近江町文化財調査報告書第7集宮の前遺跡

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1991年3月（平成2年度）

概要 宮の前遺跡第1次発掘調査・第2次発掘調査の報告集。滋賀県土木部の委託による調査。平安時代後期の寺院関連遺跡から、同時期の遺構を検出。

近江町文化財調査報告書第8集埋塚遺跡

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1991年3月（平成2年度）

概要 埋塚遺跡第1次発掘調査・浄蓮寺遺跡第1次発掘調査・塚の越古墳第2次発掘調査・高溝遺跡第2次発掘調査・顔戸遺跡第2次発掘調査の報告集。滋賀県農林部の委託による発掘調査。

近江町文化財調査報告書第9集埋塚遺跡2

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1991年3月（平成2年度）

概要 埋塚遺跡第2次発掘調査の報告。滋賀県農林部の委託による発掘調査。古墳時代後期の大溝を埋設して築造された奈良時代の大形掘立柱建物群を確認。

近江町文化財調査報告書第10集塚の越古墳

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1991年3月（平成2年度）

概要 6世紀初頭に築かれた周濠を持つ後期前方後円墳の調査。滋賀県農林部の委託による発掘調査。古墳の裾部を巡る石見型盾埴輪を確認。

近江町文化財調査報告書第11集碓遺跡2

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1991年3月（平成2年度）

概要 碓遺跡第2次発掘調査の報告。奈良時代の集落遺構を検出した他、周辺の条里制方位と異なった水田区画畦畔遺構等を確認。

近江町文化財調査報告書第12集黒田遺跡

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1991年3月（平成2年度）

概要 黒田遺跡第2次発掘調査の報告。古墳時代前期の大溝を検出。

近江町文化財調査報告書第13集黒田遺跡2

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1991年3月（平成2年度）

概要 黒田遺跡第2次発掘調査の報告。古墳時代前期の大溝と掘立柱建物跡を検出。

ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XVIII-4

発行機関 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会

発行年月日 1991年3月（平成2年度）

概要 寺倉遺跡第1次発掘調査の報告。

ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XVIII-9

発行機関 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会

発行年月日 1991年3月（平成2年度）

概要 新庄箕浦城第1次発掘調査、浄蓮寺遺跡第2次発掘調査の報告。

近江町文化財調査報告書第14集奥松戸遺跡

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1992年3月（平成3年度）

概要 奥松戸遺跡第2次調査の報告書。滋賀県農林部の委託による発掘調査。遺跡の東半部における遺構の拡がりを確認。

黒田遺跡試掘調査概要

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1992年3月（平成3年度）

概要 一般国道8号（米原バイパス）建設に係る試掘調査の概要報告書。条里制畦畔遺構の構造を追及調査。

ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XIX-1

発行機関 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会

発行年月日 1992年3月（平成3年度）

概要 宮の前遺跡第3次発掘調査

近江町文化財調査報告書第15集岩脇遺跡

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1993年3月（平成4年度）

概要 『興福寺官務牒疏』に記載された奈良興福寺の子院「護寧寺」に関連すると考えられる岩脇遺跡を取扱った第1次発掘調査の報告書。滋賀県農林部の委託による発掘調査。区画水田の畦畔遺構と建物遺構が確認され、暗文をもつ土師器・灰釉陶器などが出土。

近江町文化財調査報告書第16集西円寺遺跡

発行機関 近江町教育委員会

発行年月日 1993年3月（平成4年度）

概要 西円寺遺跡第1次発掘調査・第2次発掘調査の報告書。滋賀県農林部の委託による発掘調査。弥生時代後期より古墳時代中期に至る集落遺跡。集落を巡る環濠の内側に円形低墳丘墓、方形周溝墓、帆立貝形古墳などを検出。

近江町文化財調査報告書第17集黒田遺跡3

発行機関 近江町教育委員会

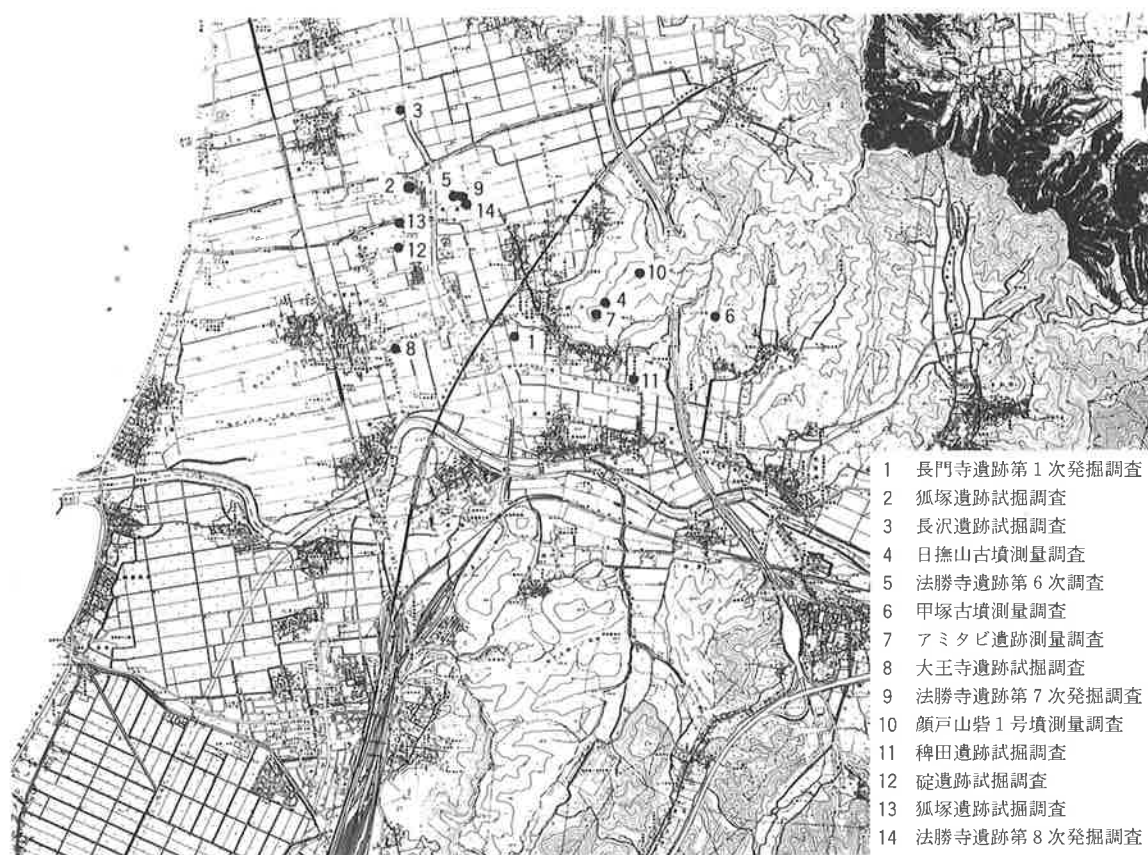
発行年月日 1994年3月（平成5年度）

概要 黒田遺跡第3次発掘調査の報告書。近畿地方建設局滋賀国道工事事務所の委託による調査。古墳時代前期の水辺祭祀遺構・大形掘立柱建物群等を検出した他、依存状況の良好な条里制遺構を確認。

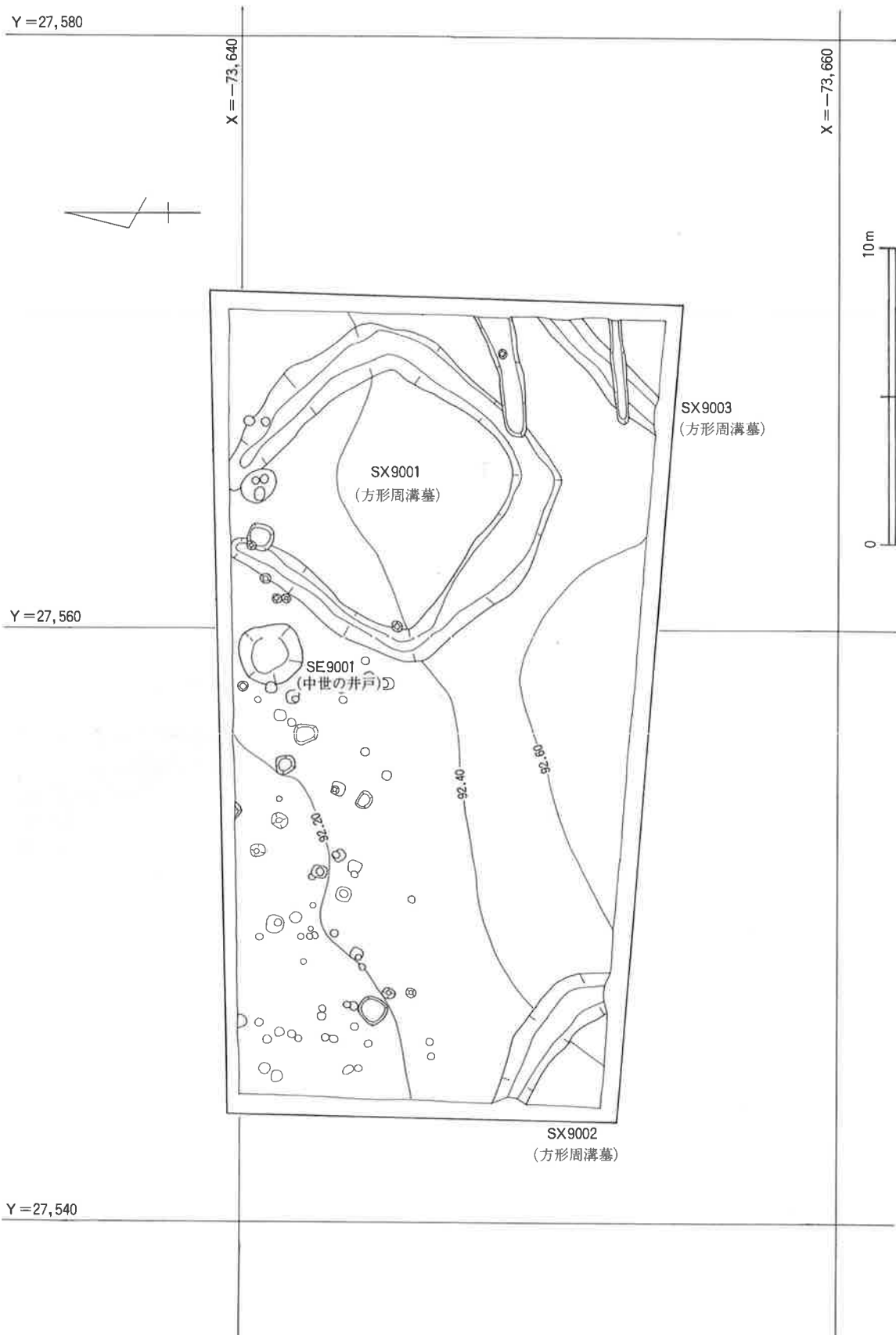
第4章 近江町内遺跡発掘調査報告

(1) 長門寺遺跡第1次発掘調査 (平成2年度国庫補助対象事業)

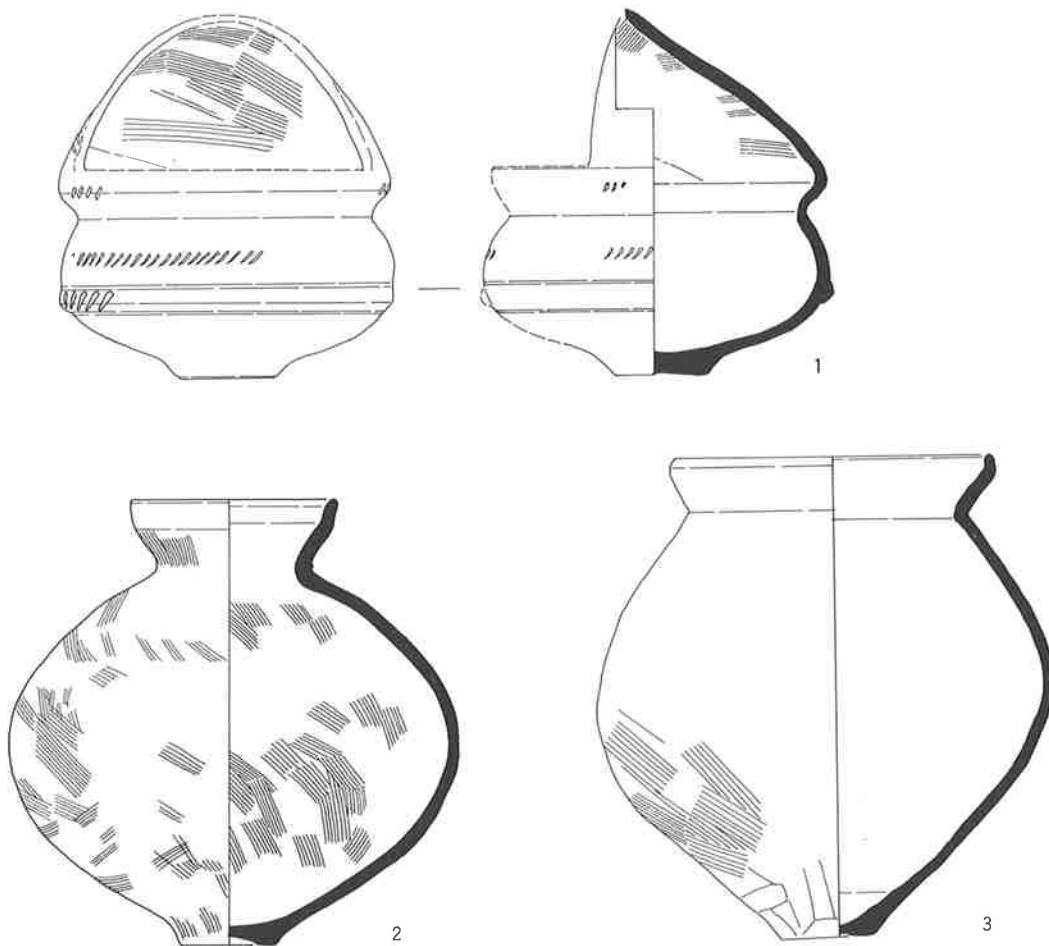
調査期間	平成2年7月25日～9月10日
所在地	滋賀県坂田郡近江町顔戸西畑
調査面積	約400㎡
遺跡の性格	長門寺遺跡は、弥生時代後期集落の墳墓域と、中世の寺院伝承地の複合遺跡。
調査結果	長門寺遺跡は、南北95m・東西250mを測る。遺跡の中央部には小字「長門寺」があり、寺院関連の遺跡と周知されてきた。調査地は、遺跡周知範囲の西端部にあたり、小字「西畑」と呼ばれ、周辺の水田より約1mほど高い畑地になっている。今回の発掘調査では、上下二層の重層する遺構面が確認された。上層の遺構面は、地表下約40cmに所在し、井戸跡と推測できる土壇1基が確認された。遺構は、一辺約2m×約2m・深さ60cmを測り、その基底は下層の遺構面に至っている。また下層の遺構面は、地表下約80cmに所在し、弥生時代後期の方形周溝墓3基が確認された。



第1図 国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」調査地点 (S=1:50,000)



第2図 長門寺遺跡第1次発掘調査平面図



第3図 SX9001出土遺物 (S=1:4)

検出遺構の中で最も顕著な遺構は、方形周溝墓S X9001である。遺構は1辺7m×7m50cm規模を測り、周溝が取り囲む。遺構の上方は既に削平を受けており、主体部等の中樞施設は消失している。周溝部分からは、弥生時代後期の土器が数点出土した。第3図に示したものが一部であるが、(1)は手焙り形土器、受口状口縁鉢の上部に覆い蓋を有するもので、胴部に刻目突帯を巡らせる。(2)は体部拡張傾向を示した壺、(3)は受口状口縁甕である。これらの遺物は、この地域の特徴を示す弥生時代後期の代表的な遺物である。

(2) 狐塚遺跡塚遺跡試掘調査 (平成2年度国庫補助対象事業)

調査期間	平成2年7月25日～7月31日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字長沢小字間村町491他
調査面積	約100㎡ (対象面積2,400㎡)
遺跡の性格	狐塚遺跡は、縄文時代早期の遺物散布地、弥生時代中後期より古墳時代前

期に至る集落の墳墓域、後期古墳群、平安時代建物群等から構成される複合遺跡。遺跡の中央部には小字「狐塚」があり、過去の調査によって、帆立貝形古墳1基と円墳4基から構成される小規模古墳群が確認されている。このうち帆立貝形古墳を成す「狐塚5号墳」は、第1次発掘調査によってその存在が明らかにされた。古墳は、全長29.7m・後円部径25.1mを測り、家形埴輪・太刀形埴輪・盾形埴輪・ゆぎ形埴輪・蓋形埴輪・人物埴輪・鶏形埴輪などの豊富な器財埴輪が出土している。

調査結果 狐塚遺跡は、南北300m・東西350mの規模を測り、当該調査地は周知範囲の北西端部にあたる。調査は、既に造成の完了した個人住宅建設用地を対象として、6箇所の試掘調査トレンチを設定し、バックホーによる表土削平の結果、地表下約2mにおいて古墳時代前期の遺構面を検出した。検出遺構の中で最も顕著なものは、一辺約1m四方の土壇であるが、深さ10cmを測るのみで、上部の削平があったものと推測される。土壇の埋土内部からは、東海系のS字口縁台付甕（A類）が出土した。この調査によって、遺跡の周知範囲が従来より北西に広がることとなり、同時に古墳時代前期の遺構の存在も認識されるに至った。

（3）長沢遺跡試掘調査（平成3年度国庫補助対象事業）

調査期間 平成3年7月20日
所在地 滋賀県坂田郡近江町長沢地先
調査面積 約50㎡
遺跡の性格 長沢遺跡は、弥生時代中期後葉を中心とした集落遺跡である。第1次発掘調査で検出した溝状遺構からは、農耕具を中心とした多量の木製品が発見されており、中期後葉の集落遺構の存在が推測されているが、住居跡等の遺構は確認されていない。
調査結果 長沢遺跡は、南北100m・東西150mの規模を測り、当該調査地は周知範囲の南西端部にあたる。調査は、造成工事前の水田を対象として、2箇所のトレンチを設定し、バックホーによる表土および堆積土の削平をおこなった結果、地表下2mまで不安定な層位の存在を確認したものの、遺跡に関連する遺構・遺物を検出することはできなかった。長沢遺跡第1次調査が実施されたおり、検出遺構は、極めて軟弱な土壤に立地していたと報告されており、遺構内から豊富な農耕具が検出されたことも含め、周辺に水田遺構が広がるものと推測されている。

(4) 日撫山古墳測量調査 (平成3年度国庫補助対象事業)

調査期間	平成3年7月20日～8月31日
所在地	滋賀県坂田郡近江町顔戸地先
調査面積	約200㎡
遺跡の性格	日撫山古墳は、長辺15m・短辺13m・高さ1mを測る長方形墳である。この古墳の存在は、比較的古くから知られているものの、実態には不明な点が多い。
調査結果	日撫山古墳は、横山丘陵の南端尾根に立地する長方形墳と周知されているものの、この丘陵に登る道が存在しないため実態が明らかでなく、かつ他の古墳と混同される機会が多い遺跡であった。今回の調査では、必要最低限の伐採作業を実施した後、水準点を古墳頂部に移設し、古墳の墳丘測量を実施した。

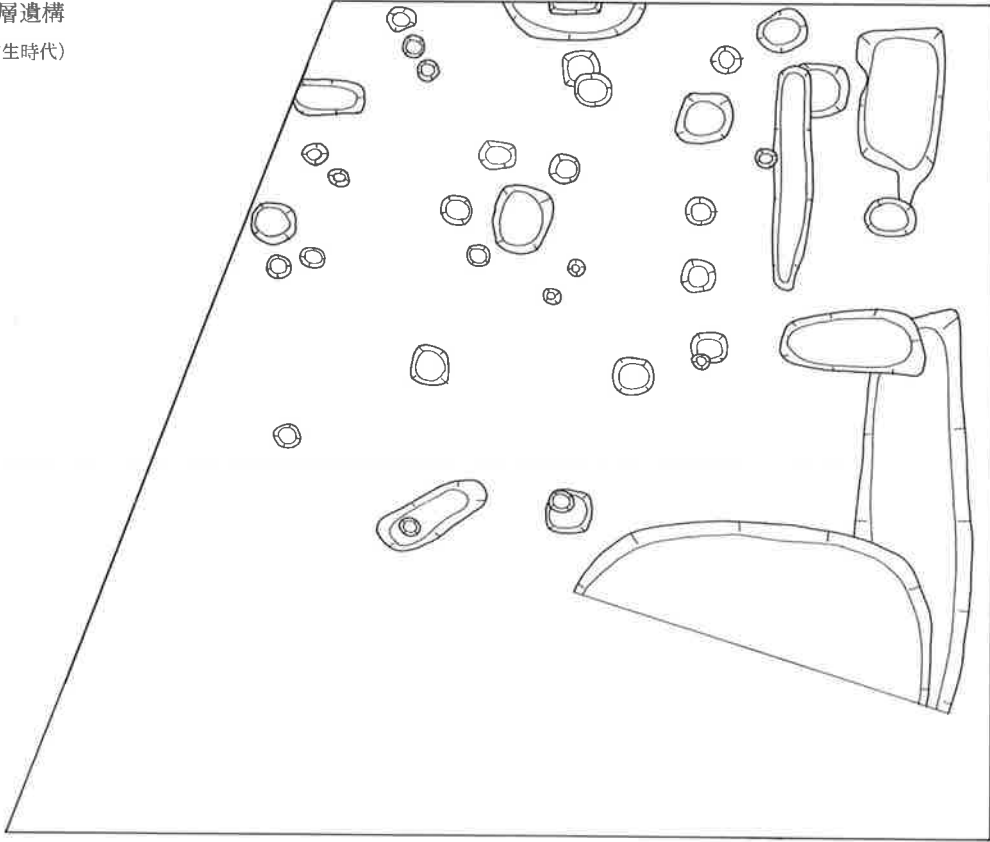
(5) 法勝寺遺跡第6次調査 (平成3年度国庫補助対象事業)

調査期間	平成4年3月16日～3月26日
所在地	滋賀県坂田郡近江町高溝地先
調査面積	約199㎡
遺跡の性格	法勝寺遺跡は、白鳳寺院を中心とする複合遺跡として古くより周知される遺跡であった。この遺跡の実態が明らかになったのは、昭和63年度に実施された第4次調査を終了した際であり、縄文時代早期から平安時代後期に至る計10時期に及ぶ複合遺跡の実態が判明した。
調査結果	法勝寺遺跡は、白鳳寺院を中心に立地する縄文時代早期より平安時代後期に至る複合遺跡である。今回の調査では、寺院推定地の北側から弥生時代から平安時代に至る遺構と遺物包含層を検出した。

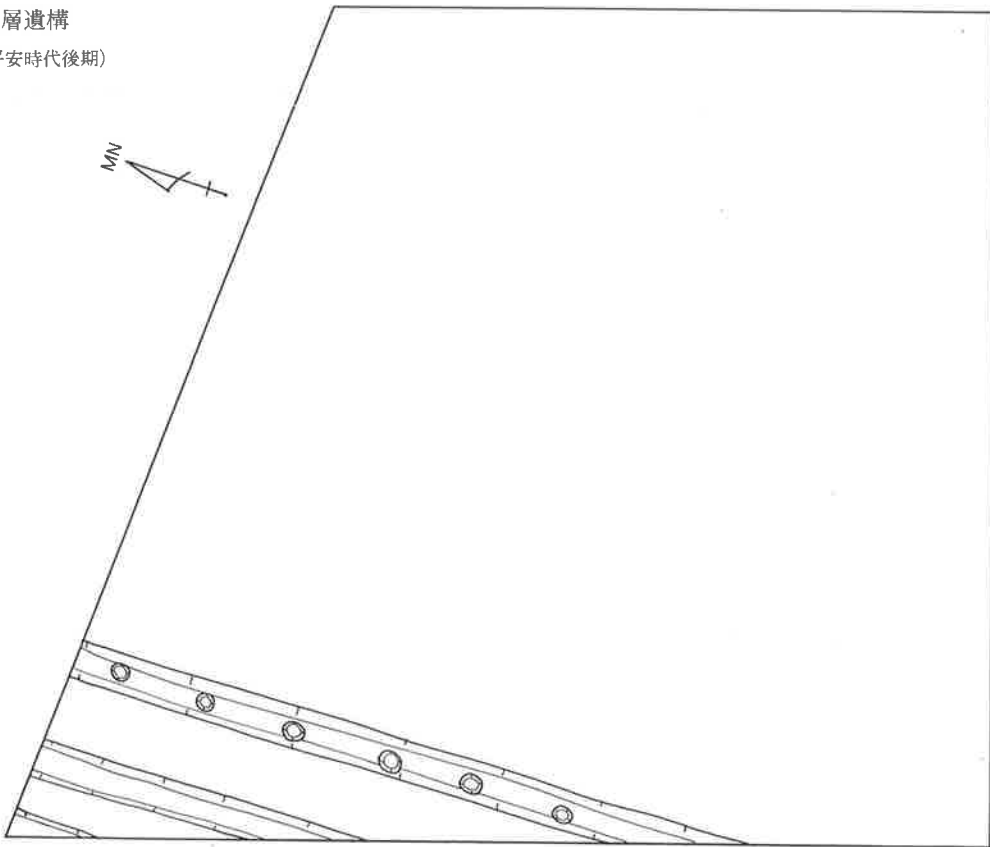
(6) 甲塚古墳測量調査 (平成4年度国庫補助対象事業)

調査期間	平成4年8月1日～9月15日
所在地	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸字甲塚地先
調査面積	約1,500㎡
遺跡の性格	甲塚古墳は「かぶとづかこふん」と呼称される葺石を伴う古墳であるが、これまでに測量調査等の事例がなく規模等は不明であった。
調査結果	甲塚古墳は、横山丘陵の南端尾根の一面に立地する大形円墳であるが、その実態については不明な点が多い。今回の調査では、水準点を移設した後、京都大学文学部考古学研究室によって、古墳の墳丘測量が実施された。

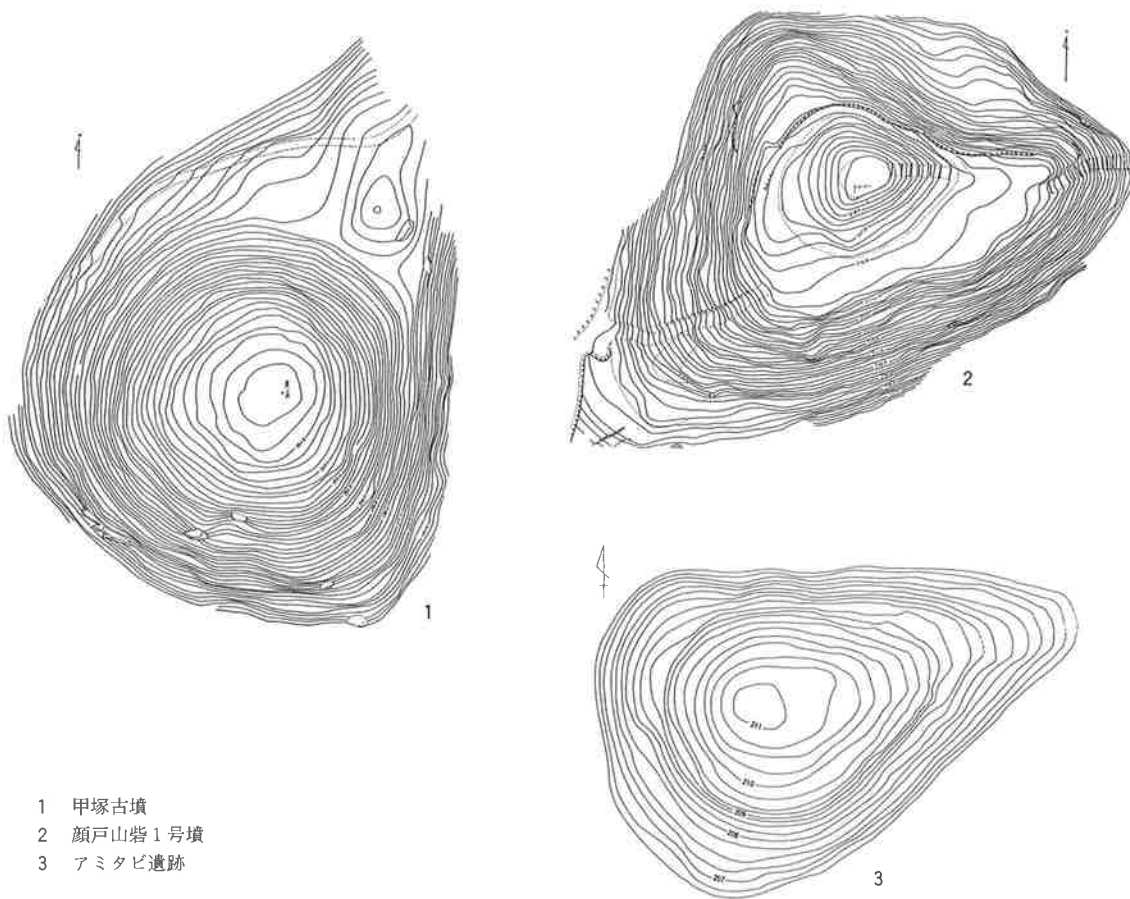
下層遺構
(弥生時代)



上層遺構
(平安時代後期)



第4図 法勝寺遺跡第6次調査平面図 (S=1:100)



- 1 甲塚古墳
- 2 顔戸山砦1号墳
- 3 アミタビ遺跡

第5図 古墳測量図 (S=1:1,000)

(7) アミタビ遺跡測量調査 (平成4年度国庫補助対象事業)

調査期間 平成4年12月1日～平成5年1月31日

所在地 滋賀県坂田郡近江町顔戸

調査面積 約1,000m²

遺跡の性格 アミタビ遺跡は、近年周知された遺跡であり、江戸時代に雨乞い祭祀に事例が知られる「祭祀遺跡」である。

調査結果 この遺跡は、横山丘陵の南端尾根の最西端部に立地しており、祭祀遺跡として周知されるものの、具体的な遺構は確認されておらず、僅かな尾根道を残す程度の環境が知られていた。今回の調査では、一部の雑木を伐採した後、水準点を移設し、平板測量を実施した。これによって、遺跡の中央部に低墳丘の古墳と思われる高まりが発見された。今のところ、この遺構は「息長古墳群」の一面を構成する古墳と思われるが、葺石・埴輪列等の遺構は確認されておらず、他の古墳と同様に、築造年代や構造について具体的なことは明らかにされていない。

(8) 大王寺遺跡試掘調査 (平成4年度国庫補助対象事業)

調査期間	平成5年3月12日～3月26日
所在地	滋賀県坂田郡近江町宇賀野地先
調査面積	約400m ²
遺跡の性格	大王寺遺跡は、寺院跡として周知される遺跡である
調査結果	試掘調査は、遺跡周知範囲の南端部と南方を対象とし、8m×10m規模の調査区5箇所を設定して実施した。調査地点は、本来の遺跡中心地より外れていたが、中世集落の建物遺構と条里制遺構が確認され、同遺跡の周知範囲がさらに北側へ広がるものと判明した。また、この遺跡は寺院関連遺跡として周知されているが、今回の調査では、寺院関連の資料を得ることはできなかった。

(9) 法勝寺遺跡第7次発掘調査 (平成5年度国庫補助対象事業)

調査期間	平成5年7月7日～7月9日
所在地	滋賀県坂田郡近江町高溝地先
調査面積	約199m ²
遺跡の性格	法勝寺遺跡は、縄文時代早期から平安時代後期までの多時期に及ぶ複合遺跡として周知される。なかでも中心となるのは、弥生時代中後期の墳墓群と白鳳寺院跡、平安時代後期の荘園関連遺構である。
調査結果	今回の調査は、寺院推定地の北西側に相当し、弥生時代墳墓群の南側に隣接する。第7次発掘調査では、弥生時代の集落遺構と飛鳥時代の遺構が確認されたものの、寺院に関連する資料は発見されなかった。

(10) 顔戸山砦1号墳測量調査 (平成5年度国庫補助対象事業)

調査期間	平成5年8月1日～9月15日
所在地	滋賀県坂田郡近江町顔戸地先
調査面積	約1,500m ²
遺跡の性格	顔戸山砦1号墳は、横山丘陵の南端尾根に立地する中世城郭関連遺跡「顔戸山砦」の中心部で新しく発見された古墳である。
調査結果	今回の調査では、水準点を移設した後、京都大学文学部考古学研究室によって、古墳の墳丘測量が実施され、古墳の実態が明らかにされた。第5図に紹介した測量図のうち、甲塚古墳と顔戸山砦1号墳のものは、同大学研究室の手によるものである。

(11) 稗田遺跡試掘調査 (平成5年度国庫補助対象事業)

調査期間 平成5年7月1日～7月2日

所在地 滋賀県坂田郡近江町顔戸地先

調査面積 約300m²

遺跡の性格 稗田遺跡は、古墳時代前期の遺物散布地であるが、周辺の試掘調査の結果、狭い範囲の遺構分布が知られ、性格の不明な遺跡であった。

調査結果 同遺跡周知範囲の西側隣接地において、遺跡の拡がりを追及する範囲確認調査を実施したところ、古墳時代前期の溝とこれを囲む形で近世期の道路状遺構を確認した。このうち古墳時代前期の溝は、第1次発掘調査時に確認された遺構に続くものと推測され、同遺跡が集落遺跡ではなく、古墳時代の溝のみを残すものと判明した。

(12) 碓遺跡試掘調査 (平成5年度国庫補助対象事業)

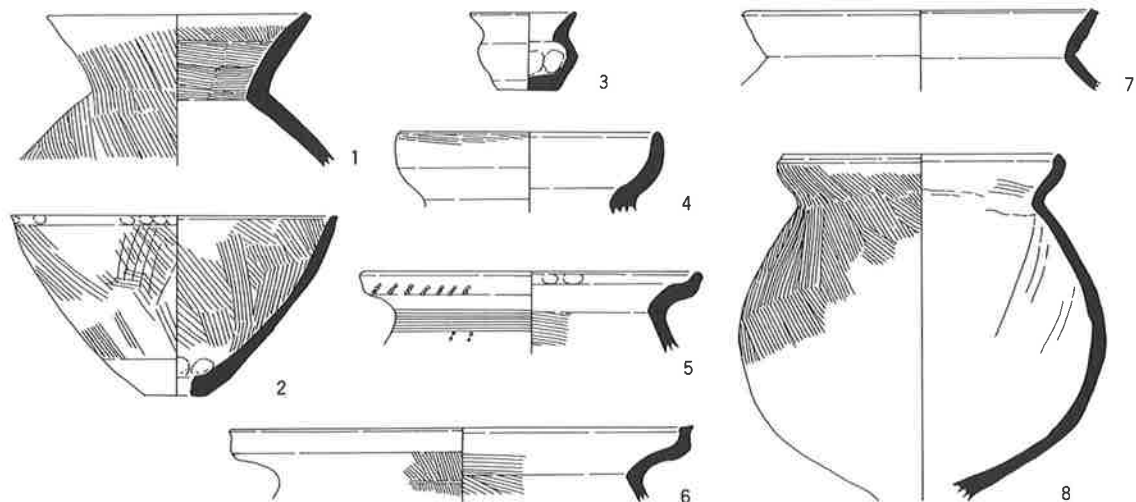
調査期間 平成5年10月1日～10月15日

所在地 滋賀県坂田郡近江町宇賀野地先

調査面積 約200m²

遺跡の性格 碓遺跡は、古墳時代前期と奈良時代の複合集落遺跡である。これまでの調査では、北側に拡がる奈良時代の遺構と、南側に拡がる古墳時代の遺構の存在が知られていた。

調査結果 今回の調査地は、周知範囲の南側に隣接する地点であり、近年になって遺物の散布が知られる箇所であった。調査では、溝状の遺構が確認され、第6図に示した遺物が出土し、周知範囲の南方への拡がりが判明した。



第6図 碓遺跡試掘調査出土遺物 (S=1:4)

第5章 近江町内遺跡一覧

番号	名称	所在地	種類	時代	立地	現状	備考
1	舟崎山古墳群	舟崎	古墳群・散布地	縄文・古墳	丘陵	山林	円墳数基・横穴式石室
2	舟崎遺跡	舟崎	経塚	その他	丘陵	山林	陶製経筒
3	法勝寺遺跡	高溝	集落跡・寺院跡	縄文～中世	平地	水田	前方後方形周溝墓
4	狐塚遺跡	高溝	古墳・集落跡	縄文～鎌倉	平地	水田	帆立貝形古墳・器財埴輪
5	高溝遺跡	高溝	集落跡	縄文～平安	平地	水田・宅地	前期～晩期・条里制畦畔遺構
6	一本木遺跡	高溝	散布地	縄文～平安	平地	畑地	石器剥片・須恵器・灰釉陶器
7	亀塚遺跡	顔戸	古墳・散布地	弥生・奈良	平地	近江町中央 公民館	弥生式土器・古墳（消滅）
8	笹塚遺跡	顔戸	古墳	古墳	平地	畑地	須恵器
9	山ノ前遺跡	顔戸	散布地	縄文	山腹	山林	石斧
10	神郷遺跡	顔戸	散布地	その他	山麓	池	柱跡
11	池野屋敷遺跡	顔戸	館跡	その他	山麓	宅地	土塁（消滅）
12	辻ノ前遺跡	顔戸	散布地	古墳～平安	平地	水田・宅地	土師器・灰釉陶器
13	田中屋敷遺跡	顔戸	館跡	その他	平地	林	
14	不明庵遺跡	顔戸	寺院跡	その他	山腹	山林	
15	鳴子塚遺跡	顔戸	古墳	古墳	平地	畑地	
16	糺井屋敷遺跡	顔戸	館跡	中世	平地	宅地・林	
17	浄蓮寺遺跡	顔戸	集落跡・寺院跡	縄文～中世	平地	水田	縄文時代後期甕棺・中世陶磁器
18	安養寺遺跡	顔戸	散布地・寺院跡	中世	山麓	畑地	石斧・日撫神社別当神宮寺
19	顔戸遺跡	顔戸	集落跡	古墳・平安	平地	水田・宅地	古墳時代掘立柱建物
20	正光寺遺跡	顔戸	寺院跡	その他	平地	水田・宅地	
21	長門寺遺跡	顔戸	集落跡・寺院跡	弥生～中世	平地	水田・畑地	弥生時代後期方形周溝墓
22	人塚山古墳	顔戸	古墳	古墳	山麓	山林	三段築成前方後円墳
23	日撫山古墳	顔戸	古墳	古墳	丘陵	山林	別名「朝妻古墳」
24	仏光寺遺跡	顔戸	寺院跡	その他	山麓	山林	日撫神社別当寺
25	円光寺遺跡	顔戸	寺院跡	その他	山腹	山林	日撫神社別当寺
26	勝正寺遺跡	顔戸	寺院跡	その他	山麓	山林	日撫神社別当寺
27	後別当古墳	顔戸	古墳	古墳	丘陵	山林	帆立貝形古墳
28	大正寺古墳	顔戸	寺院跡	古墳	丘陵	山林	円墳
29	黄牛塚古墳	顔戸	古墳	古墳	山腹	北陸自動車道	円墳（消失）
30	顔戸山砦遺跡	顔戸	古墳・城郭跡	古墳・中世	丘陵	山林	円筒埴輪・茶臼・中世陶器
31	院内遺跡	顔戸	製鉄跡	江戸	山腹	山林	鉄滓
32	甲塚遺跡	顔戸	古墳	古墳	丘陵	山林	円墳
33	稗田遺跡	顔戸	散布地	古墳	平地	水田	古墳時代前期大溝
34	アミタビ遺跡	顔戸	祭祀跡	その他	山頂	山林	帆立貝形古墳・雨乞祭場
35	黒田遺跡	顔戸・ 箕浦	集落跡	奈良・平安	平地	水田	古墳時代前期水辺祭祀遺構

番号	名称	所在地	種類	時代	立地	現状	備考
36	長沢城遺跡	長沢	城郭跡	その他	平地	宅地	保元3年築城
37	福田寺遺跡	長沢	寺院跡	その他	平地	寺地	白鳳12年創建伝承
38	長沢関遺跡	長沢	関跡	その他	平地	畑地	通称「御陣屋」
39	長沢遺跡	長沢	集落跡	弥生～平安	平地	水田	弥生時代中期木製品
40	西火打遺跡	長沢	集落跡	平安	平地	水田・畑地	掘立柱建物
41	奥松戸遺跡	長沢	集落跡・寺院跡	その他	平地	水田・竹藪	方形周溝墓・条里制畦畔遺構
42	北松戸遺跡	長沢・ 宇賀野	散布地	その他	平地	水田・畑地	須恵器
43	土川湖底遺跡	長沢・ 宇賀野	集落跡	縄文～鎌倉	湖底	湖	縄文式土器・須恵器・山茶碗
44	宇賀野館遺跡	宇賀野	城郭跡	その他	平地	宅地	
45	遠藤屋敷遺跡	宇賀野	城郭跡	中世	平地	宅地・畑地	
46	三田村屋敷遺跡	宇賀野	城郭跡	中世	平地	宅地・畑地	
47	大王寺遺跡	宇賀野	寺院跡	その他	平地	水田	地名伝承
48	碓遺跡	宇賀野	集落跡	古墳～奈良	平地	工場・水田	奈良時代掘立柱建物・南北地割
49	五反田遺跡	宇賀野	集落跡	弥生～古墳	平地	水田	弥生式土器
50	墓町古墳	宇賀野	古墳	古墳	平地	水田	円墳・土師器
51	塚町古墳	宇賀野	古墳	古墳	平地	水田	円墳
52	宇賀野墓町遺跡	宇賀野	集落跡	弥生	平地	水田・畑地	弥生式土器
53	歓喜光寺遺跡	宇賀野	寺院跡	その他	平地	寺地	文武天皇元年義淵創建
54	金光寺遺跡	飯	寺院跡	平安	平地	水田	灰釉陶器
55	若宮城遺跡	飯	城郭跡	その他	平地	宅地・畑地	
56	出原遺跡	飯	散布地	その他	平地	宅地・水田	須恵器
57	飯村館遺跡	飯	城郭跡	中世	平地	宅地	
58	飯村城遺跡	飯	城郭跡	その他	平地	宅地	
59	普明庵遺跡	飯	寺院跡	その他	平地	水田	
60	正恩寺遺跡	飯	寺院跡	その他	平地	水田	地名伝承・瓦
61	地藏堂遺跡	飯	寺院跡	その他	平地	水田	掘立柱建物・瓦
62	世継館遺跡	世継	館跡	その他	平地	宅地	
63	世継遺跡	世継	集落跡	縄文～鎌倉	平地	宅地・水田	縄文式土器・土師器
64	世継寺遺跡	世継	寺院跡	その他	平地	水田	地名伝承
65	多和田哨岩遺跡	多和田	城郭跡	中世	山頂	林	
66	多和田城遺跡	多和田	城郭跡	その他	山頂 山腹	山林	(一部米原町)
67	醒井神籠石様列石	多和田	石塁	その他	山頂	山林	(一部米原町)
68	聖谷遺跡	多和田	寺院跡	その他	山頂	山林	石塔・石仏
69	安能寺遺跡	能登瀬	寺院跡	鎌倉	丘陵	山林	山茶碗・青磁・瓦
70	岩井遺跡	能登瀬	散布地	縄文・弥生	丘陵	水田	縄文式土器・石斧
71	宮ノ前北遺跡	能登瀬	散布地	中世	山麓	水田	須恵器・窯壁片
72	青木館遺跡	能登瀬	館跡	中世	山腹	林	

番号	名称	所在地	種類	時代	立地	現状	備考
73	中村屋敷遺跡	能登瀬	館跡	中世	平地	林	
74	能登瀬遺跡	能登瀬	製鉄跡	その他	丘陵	山林	
75	能登瀬城遺跡	能登瀬	城郭跡	中世	平地	宅地・畑地	
76	奥深古墳群	能登瀬	古墳群	古墳丘陵	丘陵	山林	円墳数基
77	百如庵遺跡	能登瀬	寺院跡	江戸	丘陵	山林	
78	善性寺遺跡	能登瀬	寺院跡	その他	丘陵	寺地	延喜年間創建
79	県史跡山津照神社古墳	能登瀬	古墳	古墳	丘陵	社地	前方後円墳・石見型盾埴輪
80	宮ノ前遺跡	能登瀬	寺院跡	その他	平地	畑地	
81	日光寺砦遺跡	日光寺	城郭跡	中世	平地	宅地・水田	
82	日光寺山砦遺跡	日光寺	城郭跡	中世	山麓	林	
83	定納古墳群	日光寺	古墳群	古墳	丘陵	山林	円墳数基
84	大林寺遺跡	日光寺	寺院跡	その他	山麓	宅地・畑地	地名伝承
85	日光寺遺跡	日光寺	寺院跡	その他	山麓	寺地	元慶年間創建伝承
86	寺倉遺跡	寺倉	集落跡	中世	平地	宅地・水田	
87	天皇谷遺跡	寺倉	散布地	その他	山麓	山林	石垣
88	地頭山城遺跡	寺倉	中世	中世	山頂	山林	竪堀・削平地・堀切
89	総寧寺館遺跡	寺倉	城郭跡	その他	山麓	寺地・山林	土塁
90	新庄箕浦城遺跡	新庄	城郭跡	その他	平地	水田・畑地	今井氏本城・堀・建物跡
91	塚の越古墳	新庄	古墳	古墳	平地	山林	前方後円墳・石見型盾埴輪
92	塚の越砦遺跡	新庄	城郭跡	その他	平地	山林	土塁
93	大正寺遺跡	新庄	寺院跡	その他	山麓	道路	日撫神社別当寺
94	新庄遺跡	新庄・箕浦	集落跡	鎌倉～江戸	平地	水田・宅地	須恵器・土師器・山茶碗・陶器
95	井戸村館遺跡	箕浦	館跡	中世	平地	宅地	
96	今井屋敷遺跡	箕浦	城郭跡	その他	平地	畑地	
97	箕浦市場遺跡	箕浦	その他	その他	平地	宅地	
98	誓願寺遺跡	箕浦	寺院跡	その他	平地	宅地	
99	埋塚遺跡	箕浦・願戸	集落跡	弥生～平安	平地	水田・畑地	奈良時代掘立柱建物群
100	西円寺砦遺跡	西円寺	城郭跡	中世	山頂	林	
101	太尾山城遺跡	西円寺	城郭跡	中世	山頂	山林	削平地・土塁・堀切(米原町)
102	西円寺遺跡	西円寺	集落跡	弥生～中世	平地	水田・畑地	竪穴住居・円形低墳丘墓
103	神塚遺跡	西円寺	古墳	古墳	丘陵	山林	円墳
104	西円寺館遺跡	西円寺	城郭跡	その他	山腹	山林	
105	黒堂遺跡	西円寺	窯跡	奈良	山腹	山林	須恵器
106	岩脇遺跡	岩脇	集落跡	飛鳥・奈良	平地	水田・宅地	須恵器・土師器
107	岩谷遺跡	岩脇	古墳・城郭跡・窯跡	古墳・江戸	山腹・山頂	山林	須恵器・土塁(一部米原町)
108	護寧寺遺跡	岩脇	寺院跡	その他	山麓	山林	歎喜光寺三千別院の一

第6章 ま と め

本書では、平成2年度から平成6年度までの5年間に実施した国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」の報告をおこなった。ここでは、近江町の埋蔵文化財調査の状況をより具体的に伝える方法として3つの方法を用いた。

その第1は、平成元年以降に実施された全調査を紹介し、その中において、国庫補助事業による町内遺跡発掘調査の性格を明瞭にすることである。同補助事業の中心となるものは、個人住宅建設等に係る事前調査であり、営利行為でない小規模の開発行為を対象としている。近江町では、発掘調査の経費を原則として「原因者負担」としているが、前記の個人負担を軽減するために補助金を使用されており、さらに遺跡保存資料を作成する調査にも利用されている。

第2は、これまでに実施されてきた町内における遺跡調査を正確に理解できるよう、過去の発掘調査報告書名を明記した。これらの報告書を調べることで、一層町内の遺跡を理解することができよう。また、報告書に掲載されなかった小規模な発掘調査の概要を記すことも、この埋蔵文化財調査集報の役割であると考えている。

第3は、次第に明らかにされる各遺跡の範囲と性格を明瞭にすることである。現在、近江町では合計108箇所の埋蔵文化財包蔵地が知られているが、これらの個々の遺跡については、繰り返し実施される立会調査・試掘調査・発掘調査によって、次第に正確な範囲が判明し、その性格も明瞭になりつつある。本書では、平成7年3月現在に周知されている埋蔵文化財包蔵地の範囲を明確にし、極力その性格を明らかにした。

以上、平成2年度より同6年度までに実施した近江町内遺跡発掘調査の事業を報告する次第である。文末になったが、滋賀県教育委員会文化財保護課をはじめ、日頃より近江町の埋蔵文化財調査に御協力をいただいている方々に謝意を表する次第である。

圖 版



長門寺遺跡第1次発掘調査風景



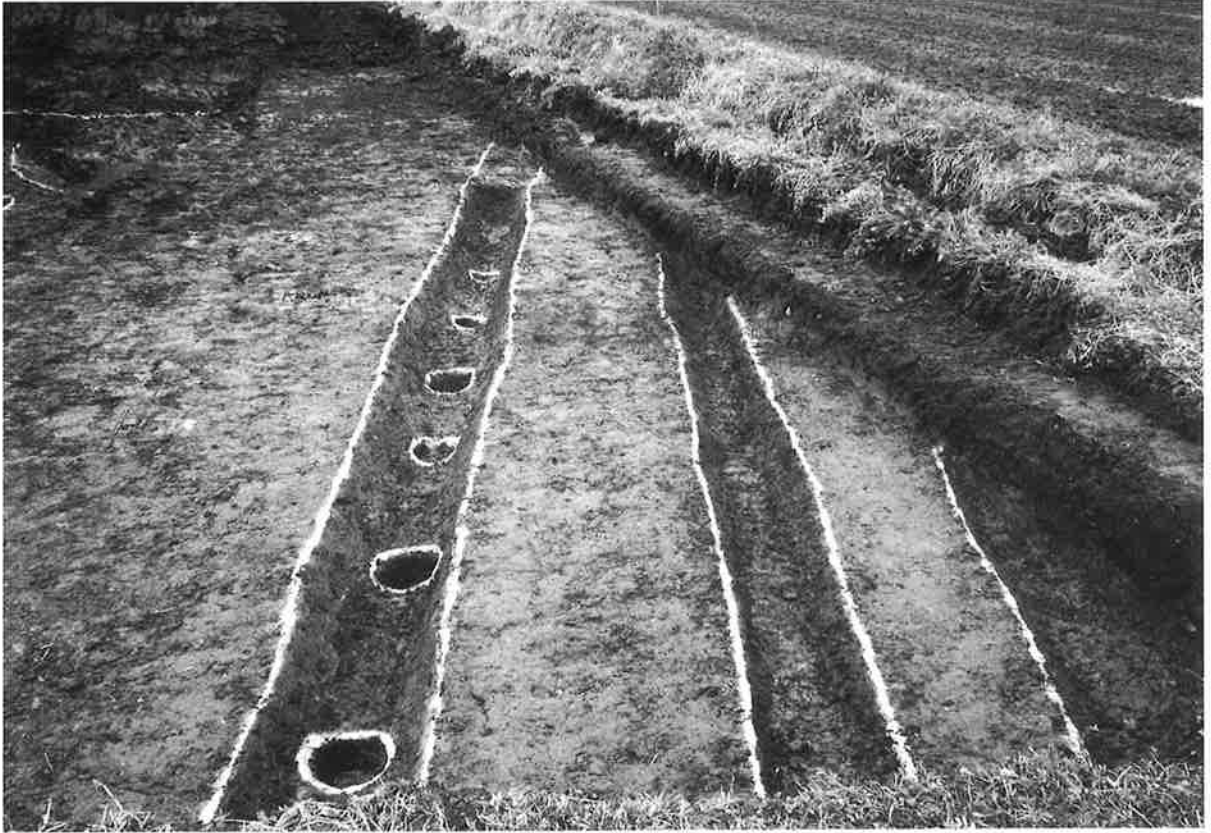
長門寺遺跡S X 9001検出状況



日撫山古墳現況



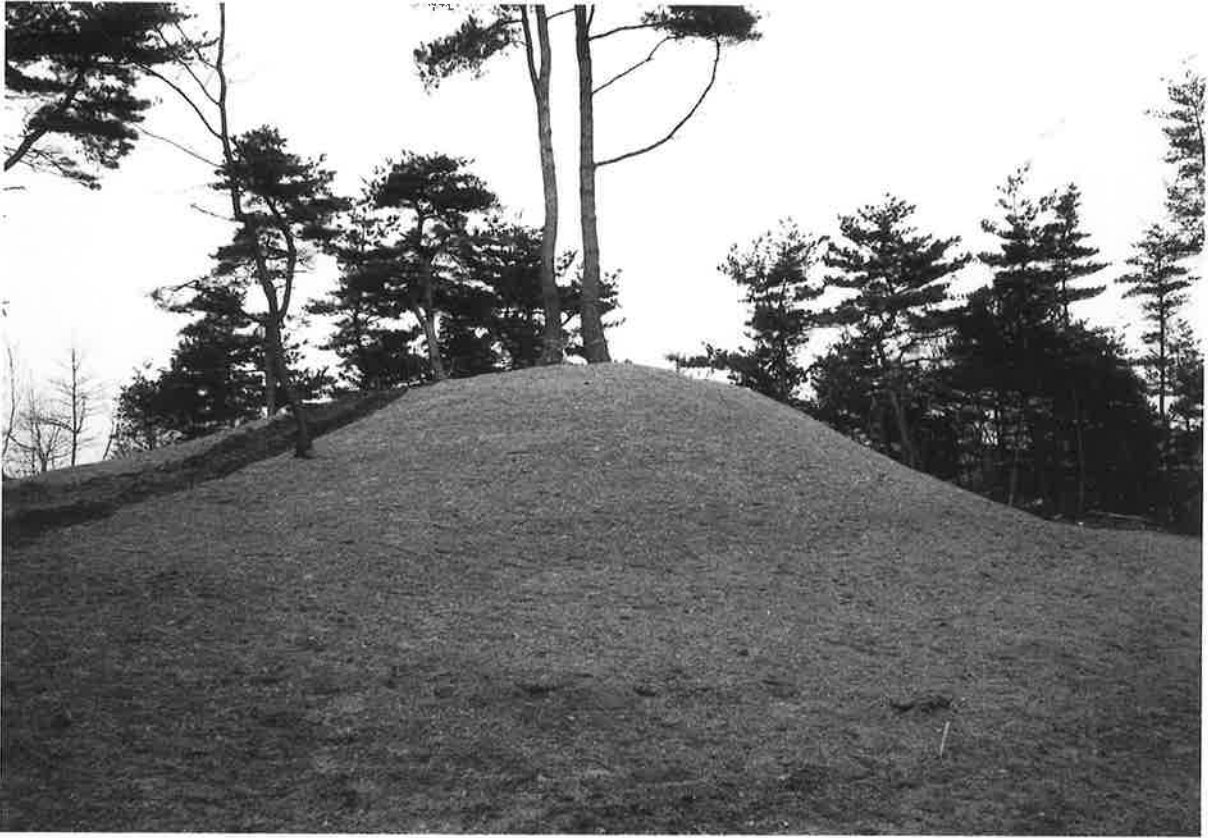
長沢遺跡試掘調査風景



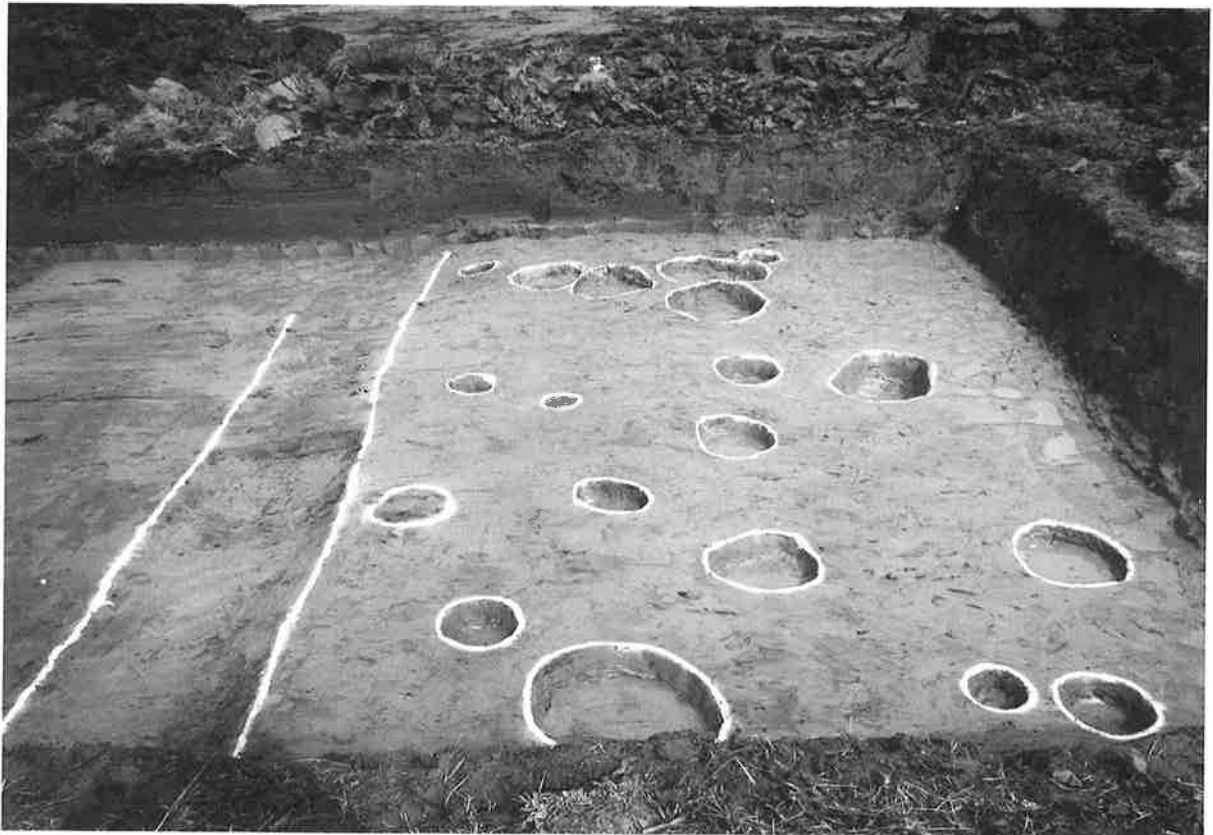
法勝寺遺跡第6次発掘調査検出遺構（上層）



法勝寺遺跡第6次発掘調査検出遺構（下層）



顔戸山砦1号墳現況



大王寺遺跡試掘調査検出遺構

ふりがな	おうみちようまいぞうおんかざいちようさしゆうほう
書名	近江町埋蔵文化財調査集報 1
副書名	国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」報告書
巻次	
シリーズ名	近江町文化財調査報告書
シリーズ番号	第18集
編著者名	宮崎幹也
編集機関	滋賀県坂田郡近江町教育委員会
所在地	〒521 滋賀県坂田郡近江町顔戸488-3 ☎ 0749-52-3111
発行年月日	西暦 1995年3月31日
印刷	有限会社 真陽社 〒600 京都市下京区油小路通仏光寺通上ル ☎ 075-351-6034